

60th
Anniversary

五城目町制施行
60周年記念誌

あゆみ



五城目町



60th Anniversary

五城目町町制施行
60周年記念誌

あゆみ



町制施行60周年を迎えて

町民の皆様とともに町制施行60周年を迎えることができたことは、誠に感慨深く、大変嬉しく存じます。

我が郷土五城目町は、昭和30年3月31日、旧五城目町、馬場目村、富津内村、内川村、大川村の1町4村の合併により誕生しました。町政発展のためご尽力くださいました皆様のご支援とご協力に改めて感謝申し上げます。

本町は先人の英知と努力によって、その恩恵は、匠の技、悠紀の銘品、旬彩の並ぶ朝市の賑わいとなり、農林商工のまちとして発展してきました。

人口減少や超高齢化社会という大きな課題を見据えながらも、更なる飛躍を遂げるため、町民と行政の協働のまちづくりを進め、魅力あふれる地方の創生に向けた新たなまちづくりに取り組んでまいります。

この60周年の節目を契機に、これまでの歴史を振り返り、その重みを実感しながら、これからの「五城目」を町民みんなで創り上げ、まい進していきたくと存じます。

五城目町長

渡邊彦兵衛



雀館公園上空から撮影した五城目町

もくじ

五城目町概要	4
歴史／躍進！五城目町	4
史跡・文化財／五城目の史跡を巡る	6
自然／豊かな自然	8
姉妹都市／日本の中心「千代田」が姉妹都市	9
まちづくり／五城目町の今、そしてこれから	10
交通／五城目町と各都市を結ぶ幹線道路	11
福祉環境／元気と安心で幸せを実感	12
子育て・教育／未来を紡ぎ、拓く、人づくりのまちへ	13
五百年の伝統 旬の彩り「朝市」	14
五城目歳時記	18
五城目の逸品	20
おいしい五城目	22
名所・絶景／五城目絶景巡り	26
郷土の偉人紹介／すばらしい先輩たち	28
文化・伝統芸能	30
温泉／五城目温泉めぐり	32
五城目町施設ガイド	34
60年の軌跡	36
数字で見る五城目町	74
五城目へのアクセス	80

躍進！五城目町

郷土のあけぼの

およそ4000年前から始まる郷土の縄文時代。現代に姿を現す数々の遺跡に、そのころの人々の生活や技術が輝いています。

10世紀には、五城目付近とされる律令国家最北の郷「率浦郷（いさうらごう）」が置かれます。郷土の人々は、狩猟採集と並行し、いち早く稲作を始めました。やがて、良馬の産地にもなるなど、この地の生産活動は着実に発展しました。

山と海の間をつなぐ要地であった郷土は、時代の進展と生産の高まりによって、人々の交流と物流の拠点「市」が始まります。人や物が集まると、「座」も始まりました。そして、「ものづくり」の町としても発展していききました。

明治時代が到来し、郡制施行により、郷土は南秋田郡に組み込まれます。明治22年、町村制が施行され、五目村、馬川村、馬場目村、富津内村、内川村、大川村が編成されました。

郷土は、行政や産業等の面で、力強く歩みを進めていきます。そして、明治29年、当時の南秋田郡内では、土崎港町、船川港町に次いで3番目の町として、「五城目町」が誕生しました。これを機に本格的な近代化が幕を開けました。

昭和28年、「町村合併促進法」が制定。郷土の人々には不安もありましたが、大きな関心と夢が広がり、昭和30年3月31日、五城目町、馬場目村、富津内村、内川村、大川村の5つの町村が合併し、新「五城目町」が発足。昭和33年には八郎潟町から分町した浦横町、岡本、野田が編入されました。豊かな自然とともに未来を目指す人々、技を磨いて産業を育み未来を目指す人々は手を取り合い、新しい町をつくり、着実な基盤をつくりあげてきました。

そうして60年。わが郷土・五城目町は未来を見つめ、躍進を続けていきます。



旧五城目鳥瞰図

大正6年に発行された「五城目真景図」。本町部の町名や商店、社寺、官庁、銀行などが描かれている。

町名の由来

平安時代の辞書「和名類聚抄（わみょうるいじゆしょう）」に、現在の五城目付近とされる「率浦郷（いさうらごう）」が記されています。この「率浦」が元になった「五十目（いそのめ）」という地名が、鎌倉時代終期から使われるようになりました。「五十目」はいつの間にか、「ごじゅうのめ」、「ごじょうのめ」と読まれるようになり変わっていったと考えられます。

明治29年（1896年）、町制が敷かれ五十目村が「五城目町（ごじょうめまち）」となりました。その後、昭和30年（1955年）、五城目町、馬場目村、富津内村、内川村、大川村の5つの町村が合併しました。昭和33年には、八郎潟町から分町した浦横町、岡本、野田が編入され、現在に至っています。

貴重な文化財 中山遺跡

中山遺跡は、高崎字中泉田26などに所在する縄文後期から晩期の遺跡です。明治時代から既にこの遺跡の存在は注目されていましたが、昭和57年、58年、平成2年の五城目町教育委員会による発掘調査では、縄文時代晩期の土坑墓と竪穴住居が見つかりました。他にも漆塗弓、櫛、漆漣布といった豊富な有機質遺物が出土し、縄文後期から晩期の豊かな物質文化が明らかになりました。

平成24年4月には、町と弘前大学人文学部との研究協定を結び、官学共同で研究を開始しました。同年8月20日からの発掘調査では、縄文後期から晩期の資料が検出されました。土器は注口土器や赤漆塗土器が多数出土したほか、木胎漆器、藍胎漆器、櫛などの漆製品、石鏃（せきぞく）や石匙（いしざじ）、台石類（だいせきるい）、磨石（ませき）・敲石類（こうせきるい）といった石器など膨大な遺物が出土しました。

周辺の地形形成とともに、後期後半から晩期前半の遺跡形成から衰退までが豊富な遺物により解明されたことは、県内はもろん東北日本海沿岸では初めてで、縄文時代を解明

するうえでも貴重な資料となります。発掘調査は地域の歴史や文化を知る上で絶好の機会です。中山遺跡は、過去の生活を現在に伝え、将来の文化を創造するためにも次世代へ引き継がれるべき文化財です。



▲中山遺跡より出土した
“赤漆塗大型壺”

平成24年度に出土。赤い漆を塗った高さ約30cmの土器。この大きさの漆を塗った土器が完全に近い形で発掘されたのは全国的にも珍しい。



▲弘前大学による中山遺跡発掘調査の様子

史跡
文化財

五城目の史跡を巡る

高度な技術を持った

郷土の縄文人

五城目には数多くの縄文遺跡があります。町全体が縄文遺跡の上にあるといっても過言ではありません。出土品も多彩です。

その一つが「編布（アンギン）」。
カラムシの繊維を糸にして編んだもので、ちようど布を絞りひねったような形で出土しました。繊維が風化せずに出土したのは、漆で固められていたため。つまり、この編布は漆の漉し布で、郷土の縄文人は高い漆工技術を持っていたのです。

ほかにも、赤色漆塗飾弓や赤色漆塗櫛、壺形土器、注口土器、鉢形土器など、出土品の美意識の高さから、狩猟採集の生活にあっても、人々が自然と共生する豊かな暮らしを営んでいたことを知らされます。

秋田郡衙（ぐんが）と推定される石崎遺跡

大川石崎の水田には一辺400mと推定される遺跡があります。ここには奈良時代から平安時代まで、当時の律令国家最北の軍事・官衙（かんが）施設「秋田郡役所」があったといわれています。遺跡は巨大な烽火

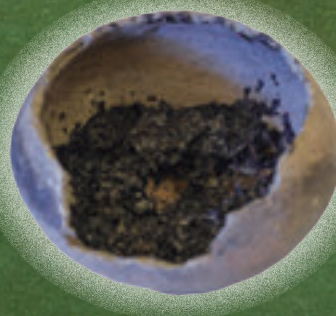


クシ
櫛（復元）

赤色漆塗櫛 幅6.9cm 高さ5.3cm

この櫛は、黒漆で固定した堅いつくりで、歯は失われていた。黒漆の上に赤漆を塗っている。歯を結んだ糸が線やこぶ状のでこぼこになっていて、それが装飾にもなっている。弓も櫛も重要な祭祀用具とみられる。

中山遺跡



フカバチガタドキ
深鉢形土器

漆入り深鉢形土器
底辺5.2cm 高さ7.0cm

この土器は破損しているが、内部に漆が入っている。漆液の容器として使っていたもので、はじめから壊れた土器を利用した可能性がある。



アンギン
編布

漆こし布 現在長13.8cm

繊維はカラムシ。普通、布類は土の中で腐食してしまい、出土例はほとんどない。この編布は、漆を漉すことに使ったので、漆がよく染み込み、しかも、湿地の泥炭層の中にあつたことから、良い状態で保存されていた。布として、国内の出土例の中では、最大級の大きさ。また、漆を漉している形で出土し、編み方もはっきりとしている。



ワンキュウ
湾弓

赤色漆塗飾弓 長さ135cm 直径2.7cm

この湾弓は、全体が赤漆で塗られ、所々、3~4cm幅の桜の皮をまいて補強され、飾られている。

国内で出土した中では最も古いといわれている。大陸から直接、文化が伝わってきたことをうかがわせる遺物である。

全国登録有形文化財



福祿寿酒造(平成8年12月26日登録)

福祿寿酒造上酒蔵・下酒蔵・事務室・住宅

事務所・住宅は大正10年(1921)築。寄せ棟造り妻入りの店舗は、通りニワ方式がとられ、表から事務所、8畳、居間と並んでいます。座敷は内玄関を伴う四間取りに8畳を加えた平面で構成されています。特に12畳の奥座敷は、廊下を通して眺める庭とともに、見ごたえがあり、大正期の和風住宅の粹といわれています。

上蔵は18世紀末の土蔵造りの酒蔵。構造は単純にして豪傑。秋田県の酒蔵の原型とも評価され、他の酒蔵の参考となったといわれています。

下蔵は19世紀初期の土蔵造りの酒蔵。規模や外壁のデザインは上蔵とほとんど同じですが、材料仕上げ程度を見ると上蔵よりも平滑さが増し、丁寧に加工されています。



菊地家住宅(平成16年6月9日登録)

菊地家座敷・住宅離れ・文庫蔵

座敷は、入母屋造、鉄板葺の平屋建てで、西北2面に土間を廻し、内部は12畳半の座敷などを田の字型に配置する、吟味された木材を用いた全体に上質なつくりの書院座敷となっています。

離れは、入母屋造、鉄板葺、平屋建てで、庭園に面した東南2面に土間を廻すなど座敷と似た構成をとっています。内部は10畳半の座敷で、床柱に南洋材を用いるなど凝った造りが随所に見られます。

文庫蔵は、切妻造、鉄板葺の2階建て妻入土蔵で、東面に下屋を差し掛けて蔵前をとり、西方に便所・風呂場を付属する。正面は黒漆喰塗で、戸前周囲は唐草模様を施すなど高度で繊細な左官技法で仕上げられています。

10世紀には、律令国家最北の郷「率浦郷」が置かれたことが和名類聚抄に記されています。

岩野山古墳群



ワラビテトウ ケヌキガタタチ
蕨手刀・毛抜形太刀

岩野山に古墳群が築造されたのは、奈良時代後半から平安時代の中期といわれ、約1,000平方メートルの中に30基ほどの組み合わせ式木棺、割竹式棺、配石遺構などが発見されている。

被葬者は、878年の「元慶の乱」で死亡した土地の豪族と思われる、遺物としては、石・勾玉・蕨手刀・毛抜形太刀・円頭太刀・須恵器・土師器などがある。

岩野山古墳群は、昭和38年に県史跡指定を受ける。



石崎遺跡

石崎遺跡より出土した逆茂木

石崎遺跡の柵列内には、最北の郡衙(郡役所)がある秋田郡衙があったと推定されている。878年元慶の乱と呼ばれる当時最大の蝦夷の反乱が起きたときは、国府のあった秋田城から秋田郡衙まで焼かれてしまったといわれる。発見された逆茂木の中に焼けたものが見られるのは、元慶の乱を物語っているといわれる。

豊かな自然



馬場目川



富津内川



内川川

町のシンボル

馬場目川と森山

馬場目岳（1,037^{メートル}）を源とする馬場目川は南秋田郡最大の川で、八郎湖に注ぐ最大の川です。町の中心をゆるやかに流れ、流域は五城目町の町域と重なります。馬場目川は生活用水としてはもちろんのこと、湖東地区の田畑を潤す命の源です。

町のシンボル森山は、標高325^{メートル}（二高地）の小さな山ですが、それだけに誰もが気軽に登ることができ、身近な自然を楽しむことができます。二高地の頂上には「希望の鐘」があり、そこからは湖東地区や大潟村が一望できます。さらに男鹿三山と日本海、秋田市方面、能代市方面が遠望でき、晴れた日には北に白神の山々、東の森吉山、南には太平山、鳥海山が展望できます。

春の夕暮れ時、森山から見下ろす水を張りキラキラと黄金色に輝く一面の水田は、かつて日本第2位の広さを持つ八郎湖の姿を思い起こさせます。



森山



馬場目岳(写真中央)

日本の中心「千代田」が姉妹都市

深まる絆・都市交流

千代田区にあった「佐竹稲荷」が縁となり、町と千代田区は、昭和60年頃から交流友好関係を深めてきました。

平成元年10月には姉妹都市提携を結び、行政の交流はもちろん、子どもたちの児童双方向交流、野球や弓道などのスポーツ交流、町内会・消防防災などで交流を深めています。平成19年4月、千代田区役所庁舎の新築に寄せて漆塗り仕上げの櫻テールを寄贈しています。

また、首都圏に住む五城目町出身者で結成された「ふるさと五城目会」は、両自治体の行事に積極的に参加しており、姉妹都市提携の架け橋的存在となっています。

千代田区との姉妹都市提携により、お互いの個性的な特徴を活かしながら住民同士が親しく交流し、また非常時や緊急時には協力し、助け合いながら相互の発展に努めていきます。



千代田区新庁舎



秋葉原電気街



千鳥ヶ淵の桜



千代田区・五城目町
児童双方向交流事業

神田祭



五城目町の今、そしてこれから

働く場の確保と

創業を支援

平成27年9月末現在の本町の人口は、10,025人（住民基本台帳搭載人口）となっています。

本町の人口動態は、近年、死亡者数や転出者数が、出生者数や転入者数を上回る傾向が続き、ここ数年間の平均では毎年約210人が減少し、そのうち「自然減」が125人、「社会減」が85人となっています。

人口減少に伴う様々な問題解決の施策の一つとして、若者の町内定着を図る必要があります。

また、子育てや結婚支援などの少子化対策への取り組みのほか、地場産業、農工商連携の活動を強め、地域経済の好循環を生み出し、若者の働く場の確保や創業支援などの取り組みが重要となります。

町では、人口減少に歯止めをかけ、町の活性化のための計画として「五城目町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を進めています。戦略

内容は、子育て世代、企業や金融機関などの関係者や有識者で構成する策定審議会で審議しています。

総合戦略は、人口の現状分析を行い、人口の将来展望を描き、平成27年度から平成31年度までの5年間の基本目標や具体的な施策、事業を決定することとしています。



五城目町役場

独特な外観が特徴で入り口には町で採れたコブ杉などが展示されている。



湖東3町商工会

五城目町と八郎湯町、井川町とで合併して設立された商工会。3町が協力して、様々な施策を行っている。



五城目警察署

湖東地区の警察署として五城目町、湯上市、八郎湯町、井川町及び大湊村の合計1市3町1村を管轄している。



五城目消防本部

平成27年10月に現在地、下山内に新築移転。

地域活性化支援センター

平成25年3月に閉校した馬場目小学校の校舎(平成12年1月完成)を活用し、起業やコミュニティ活動などを実施する事業者を支援する場として平成25年10月に開設。

五城目町と各都市を結ぶ幹線道路

整備が進む交通網

秋田自動車道五城目八郎潟IC

野田町内には遠方からの高速アクセスを可能にする玄関口「五城目八郎潟IC」があります。

岩手県北上市を分岐点とし、五城目町まで143・5^{キロ}の快適な航行を実現しています。

町の発展に大きな貢献が可能なインフラとして期待されています。

国道285号

秋田市と県北地域を結ぶ最短ルートとなっている町内を縦断する一般国道です。あきたリゾートライン、五城目街道などとも呼ばれています。平成27年11月には、中津又道路が完成し、富津内落合地区の連続する急カーブを解消しました。

国道7号

新潟市から日本海沿いに、山形県庄内地方、秋田県を経由して、青森市に至る幹線国道です。町内の西側・

大川地区を縦断しています。江戸時代から羽州街道と呼ばれ、整備が進められてきています。



秋田自動車道
五城目八郎潟IC



国道285号
平成27年11月、3つの橋りょうと1つのトンネルを整備した285号中津又道路が完成。富津内落合付近。



国道7号
昭和41年に完成した八郎潟バイパス。大川下樋口付近。

元気と安心で幸せを実感

生き生きと暮らす

秋田県は現在、全国でトップの高齢化率を記録していますが、五城目町はその中でも第3位の高齢化率となっています。

また味の濃い食べ物や胃ガンで死亡率高い秋田県平均より高くなっています。

五城目町では町民が健康で生きがいのある豊かな人生を送るため、様々

な取り組みを行っています。

長く健康であるために

町では「健康ごじょうめ21計画」を策定し、町民の健康の維持に努めています。

これは町の抱える様々な問題に対して活動を実施し、町民一丸となって健康増進に取り組んでいます。

高齢者の笑顔あふれる生活

老後を迎えても地域の一員として、自分らしく、生きがいを持って暮ら

せるよう、交流・社会参加の場づくりに努めるとともに、介護や支援の必要な高齢者を地域で支え合い、高齢者が安心して暮らせるよう、高齢者の支援体制の充実を図っています。



平成27年2月に改修が完了した屋内温水プールでの水中運動による健康づくり。



敬老福祉の集い



笑顔で健康づくり



養護老人ホーム「森山荘」



特別養護老人ホーム「広青苑」

子育て
教育

未来を紡ぎ、拓く、人づくりのまちへ



もりやまこども園



五城目小学校



五城目第一中学校



県立五城目高等学校

平成21年2月、町民が待ち望んだ五城目第一中学校の新校舎が、広々野の台地に完成しました。平成22年2月には屋内運動場、その後、部室兼倉庫やテニスコート、太陽光発電設備、屋外学習スペースや駐車場整備なども完成。地産の木材をふんだんに使い、温かな新校舎の見学会や記念行事にはたくさんの町民が訪れました。

森山に向かい、大きく翼を広げたように誕生した新五城目第一中学校が、卒業生や町民の皆さんの思い、そして引き継がれた歴史と伝統を刻み、大きく羽ばたいています。

子どもの健やかな成長に向けて

個性に応じた学校教育の推進

幼保連携型の認定こども園の「もりやまこども園」では、生き抜く力の基礎を培っています。

「広い世界へー」をこじょうめで世界一周」など、国際教育にも積極的に取り組む「五城目小学校」。文部科学大臣賞を受賞した日本一の給食の「五城目第一中学校」では、たくましく生き抜く児童生徒の育成を目指しています。

そして湖東地区唯一の高校「県立五城目高等学校」が、心身共に健康な人間の育成を教育目標としています。

認定こども園 もりやまこども園の運動会



国際教育にも取り組む五城目小学校

五百年の伝統

旬の彩り

朝市

520年の歴史が
息づく五城目朝市

「市」の始まり

520年前、明応4年（西暦1495年）、馬場目の地頭・安東五郎季宗が家臣の齊藤弥七郎に命じて、「市神」と書いた八角柱を馬場目町村に立てて、そこに市を開いたのが「市」の始まりと伝えられています。町村の集落には「五城目朝市発祥の地」と刻まれた記念碑が立っています。

その後、馬場目城が減び、藤原内記秀盛（五十目に城館を構え、五十目氏を名乗る）が五城目地域の新しい支配者となり、天正17年（1589年）ころ、砂沢城下の五十目上町村、同下町村（現在の五城目町上町と下町）に市が移されました。山よりの町村から山地と平地をつなぐ谷口の土地に移った五十目市は、物と人がさらに集まる市として発展します。

江戸時代には、城下の久保田と能



代や檜山の間、そして阿仁鉦山への物資補給の基地となり、市は流通の拠点として栄え、様々な職人が集まり、農作業や生活に必要なものすべてがそろっていました。

市は、民衆のパワーにより、様々な時代のうねりを乗り越え、今日も続いています。

繊細な季節感と素朴さ

朝市には、豊かな自然の幸から、生活用品に至るまで、さまざまな商品が並んでいます。五城目「市」は、暮らしに密着した市の伝統そのままに、戦後、2と7の付く日の月に6回開催される六斎市から、2、5、7、0の付く日、月に12回行われる十二斎市になりました。

正月2日の初売りに始まり、福寿草の苗やフキノトウが春の息吹を伝えると、新緑とともにアイコやワラビなどの多彩な山菜が並び出します。そこに色鮮やかな野菜が加わり始めて、8月は盆市。夏の鮮やかさが過ぎて、栗やキノコが顔を出し、大根や白菜など漬物の素材が増えるにつれて冬へ。そして正月用品の買い出しで大変なにぎわいとなる年取りの市。

朝市は、現代人がともすれば気付かずにいる、細やかな季節感を知らせ、その素朴さで訪れる人の心を和ませています。



近野おやき
朝市定番のおやつ、おやき。甘いあんこもちもちとした生地が町民に愛されている。



販売風景
朝市には春夏秋冬、豊かで細やかな季節感があります。



ミズたたき
町定番の山菜のミズ。たたけばたたくほど美味しいミズたたきができる。

五城目朝市で 売られる主な山の幸



マイタケ
時期／9～10月



ワラビ
時期／5～7月



シドケ
時期／5月



アイコ
時期／4～5月

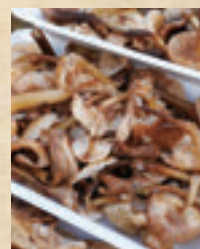
買いに
来てくれ

伊藤商店さん

戦前はざるやかごを扱っていました。戦後、野菜や果物、そして山菜やキノコなど山の幸を扱うようになりました。



ナメコ
時期／10～11月



サワモダシ
時期／10～11月

春の朝市「山菜まつり」

雪が解け、春になると同時に山菜が朝市に並びだします。春の朝市、一番の目玉商品は、山の恵み「山菜」です。コゴミ、タラノメ、ホンナ、ボンナ、アイコ、シドケ、ワラビ、ゼンマイ、ネマガリタケ、ミズ…。旬の山菜が朝市通りにあふれます。

5月の「山菜まつり」では、シドケやアイコなどの山菜が当たる抽選会や山菜の味噌汁の試食など、旬の味が楽しめる企画があります。春の山菜がドッサリ並ぶ山菜まつりが楽しめます。



春の恵みのなかに芽吹く山の香りから季節が始まる。



秋の朝市「きのこまつり」

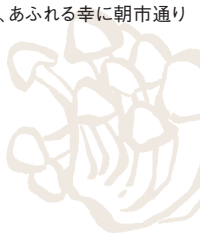
いつの間にか、夏の暑さがやわらいでくると、山にはキノコが顔を出します。そして、朝市にもキノコが並びだします。

アミコダケ、サワモダシ、ナメコ、マイタケ、ハツタケ、キンダケ、ギンタケ、マツタケ…。秋の朝市には、キノコを買い求めるお客さんがたくさん訪れます。

10月に行う「きのこまつり」では、朝市通りにたくさんさんのキノコが並び、マイタケやナメコなどのキノコが当たる抽選会、だまこ鍋、桶そば、ナメコ汁などの味覚が楽しめます。



山川に見守られ、あふれる幸に朝市通りは活気づく。



冬の朝市「あったか鍋まつり」

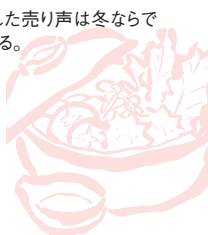
朝市は、雪が降る日も、気温が氷点下になる日も開催しています。そんな冬真っ盛りの毎年2月、朝市通りでは、朝市「あったか鍋まつり」を開催しています。

五城目の郷土料理「だまこ鍋」や野菜たっぷり小正月の食べ物「きゃのこ汁」、旬のタラがたっぷり入った「タラ鍋」など、五城目の温もりを感じられる食べ物を堪能できます。

もうもうと上がる湯気までおいしい鍋で体を温めつつ、真冬の朝市を楽しめます。



白い息に包まれた売り声は冬ならではの恵みを伝える。





女優 浅利 香津代さん

いっすな〜！五城目朝市

女優
浅利 香津代

キラキラ輝く朝市

「秋田の宝、五城目の朝市」。いっすな〜。

露店のお母さんもお父さんもおじいさんもおばあさんも、並んでいるものも、みんなキラキラ輝いて、ラッパに包まれて並んでいるものとは違うっすな〜。

便利だと言って、インターネットで食品を買う人も多くなっています。現場に出歩くことがなくなり、人との交流がなくなります。

人間には五感があります。視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚と。特に食材はインターネットでは感じられないことです。生で五感でキャッチしたものが、自分の体の中で発酵して自分の意見となるわけですから。太鼓を聴いたり、音楽を聴いたり、生

の音を聴く、生の人の声を聴くと、自分の感覚が動くということが大切ですね。

客との「間」が大切

明治生まれの祖父は、秋田駅前で果物屋をやっていました。

「爺（やまあ）」という屋号で、台湾から届いた緑色のバナナが、真っ黄色な甘いバナナに熟成しますと、市場にある店には、全県から果物屋が集まって来ました。

私も小さいころから、その店の手伝いをさせられました。店の前にお客さんが来たら、一山百円で、「母さん、買ってけ、買ってけ」と声をかけます。通り過ぎようとすると「もう一本つけるから」と言って、振り向いたら、紙に包む。そして、買ってもらうわけですね。

そのタイミングが大切でした。祖父に教えられて、それが俳優の出発点だったのかもしれない。お客さんとのやり取りも「間」が大切です。

女性。パワーから勇気を得る

祖母は、売り物にならないものは、

漬物にするかてんぷらにして食卓に並べました。

秋田のオナゴは大したも

のです。「もったいない」の精神を大切に育ってきました。

露店の五城目朝市の母さん方、日本手拭いをかぶってる方が多いですね。いっすな〜。洗いっぱいんですから。暑いときは汗を拭いて、寒いときは温かいし、女の知恵ですね。秋田の女のエネルギーですね。

秋田の宝「五城目朝市」

朝市からはエネルギーを感じます。感動があります。売ってよし、買う人よし、地域よし。この3点がそろって商いが成り立ちます。

商いは売る方も買う方も「新鮮だよ」「いつ採ったの」「うめの、うめぐねの」という会話、心を開いたコミュニケーションが大切です。

露店の朝市は、その関わり合いが地域の活性化に役立っています。家庭で閉ざされた人間関係を変えていくエネルギーになっていて、これが秋田の宝、五城目の朝市なんです。

（平成26年10月に開催した国民文化祭の基調講演を再構成して掲載）

朝市サミット

平成26年10月、朝市通りなどで国内最大の文化の祭典「第29回国民文化祭・全国朝市サミット2014 in 五城目」を開催しました。

五城館で、開かれた全国から集まった15の朝市団体で組織する全国朝市サミット協議会総会では、朝市の意義を再認識し、より一層発展させて取り組もうと「地産地消の原点である朝市の発展に寄与する」、「朝市の最大の魅力である人と心のふれあいを大切にする」などの共同宣言が採択されました。

また、朝市通りでは、全国朝市物産展や朝市代表者による「魅力ある朝市づくり」をテーマに、朝市の持つ課題や今後の取り組みなどが話し合うシンポジウムなどが行われました。



国民文化祭・あきた2014



全国朝市サミット協議会

Events

One year of
Gojōme

五城目歳時記

古くからのまつりと
新しいまつり
おらかな風土と人々の
手が祭り模様を織りなす



5月
May

番楽競演会

五城目神明社の祭典前夜に「番楽競演会」が開催されています。番楽の舞は勇壮活発で、曲芸的な要素もあり、とてもエネルギッシュです。



1月
January

消防出初式

町消防団員や消防関係者が、町内を行進した後、広域五城目体育館で、災害や火災のない安全・安心のまちづくりに決意を新たにします。

十二月	十月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	二月	一月								
年取りの市	産業文化祭	町功労者表彰式典	朝市 五百年記念マラソン大会	朝市 きのこまつり	敬老福祉の集い	七夕	全町盆踊り大会	きやどっこまつり	新成人を祝う若者の集い	盆市	森鈴旗争奪秋田追分全国大会	市神祭	番楽競演会	祭り市	朝市 山菜まつり	みちのく溪流釣り大会 in 馬場目川	朝市 あったか鍋まつり	消防出初式



6月
June

市神祭

市神祭は、古くから伝わる朝市の神様に感謝するお祭りです。朝市の素晴らしさと町の伝統文化、特産品などを紹介する協賛行事が行われています。

7月
July

森鈴旗争奪秋田追分全国大会

本町出身の鳥井森鈴が完成させた正調秋田追分の正しい伝承と保存、普及を目的に、「森鈴旗争奪秋田追分全国大会」を開催しています。





8月 August

きゃどっこまつり

街道がなまって「きゃど」。「路で語り、路で遊び、水と親しみ、橋で安らぐ」をテーマに昭和63年中央線開通と同時にきゃどっこまつりが始まり、夏の一大イベントになっています。



全町盆踊り大会

町民の皆さん、町内会や企業などの皆さんが優雅な踊りや楽しい仮装で、にぎやかに踊りの輪を広げます。「デンデンツク踊り」「キタサカ踊り」「三勝踊り」などがあります。

9月 September

敬老福祉の集い

敬老の日に合わせて、古稀、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿、上寿を迎えられた方々、最高齢の方に寿状を贈り、長寿を祝い合います。



10月 October

朝市500年記念マラソン大会

朝市500年を記念して始まったマラソン大会。雀館運動公園、そして清流馬場目川沿いの錦秋の馬場目路を会場に開催されています。

11月 November

産業文化祭

産業文化祭では、農産物や商工業製品などの展示や文芸展、芸術展などが行われ、町発展の息吹が発表されています。



12月 December

年取りの市

12月31日、正月の準備のための朝市が開かれます。しめ飾りや正月のお供え、正月用の食材などを買い求めるお客さんでにぎわいます。

五城目町を代表する名物・名産

五城目の逸品

Local Speciality



五城目の矢は、伊達藩正統の御矢師の手から成る逸品です。

五城目の逸品



刃物

カマやクワなどの野鍛冶から発達した、500年余りの伝統がある五城目鍛冶の刃物は抜群の切れ味があります。



御矢

御矢師 永澤繁明 明久の御矢。ここで作られる竹矢は全国の弓道愛好家から評価されています。



写真提供 / 株式会社 宮盛

和室用天井板

天然秋田杉の銘木柄を特殊印刷した化粧紙、JAS合格合板の表面に特殊加工した綺麗な目透し天井板です。



陶器

かつては瀬戸座がありました。現代の暮らしに合う自然素材を生かした「土の温もり」と「使いやすさ」を感じる器を焼き上げています。

銘酒

福祿寿酒造 株式会社は、創業元禄。以来300有余年にのぼる歴史は、秋田の酒造史としても大変貴重な存在。国際線の機内酒ともなった「一白水成」も人気の逸品。



一白水成

十五代彦兵衛

福祿寿



組子細工

小さな木片を組み合わせて模様を作り出す「組子」の技術。五城目第一中学校の正面玄関ホールへの引き戸には「森山」「馬場目川」「五城目城」「やまゆり」が組子細工で描かれています。

五城目箆笥

林業の盛んな五城目町では採れた木材を加工して箆笥や桶などの製作が盛んに行われています。



「舌」と「お腹」を満足させます

おいしい五城目

Gourmet introduction





料亭 松竹

五城目産地鶏でとったスープで田舎の味に仕上げたふるさとの素朴な味。

五城目町下夕町43-2
TEL.018-852-3160



赤倉山荘 悠紀の湯

比内地鶏仕立てのスープに野菜、キノコと一緒に煮込む赤倉山荘名物。

五城目町富津内中津又滑多羅3-7
TEL.018-854-2969



五城目町の公式キャラクター
だまごちゃん



五城館

地元米で一つひとつ丁寧に仕上げただまご手間暇かけたダシと旬の具材が自慢。

五城目町字鷲ノ木89-1
TEL.018-852-5300



農家レストラン 清流の森

杉沢産あきたこまちのだまご地鶏のスープは相性が抜群。こだわりの味付けです。

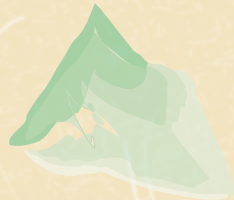
五城目町馬場目字蛇喰27
TEL.018-853-2577



道の駅五城目 悠紀の国 五城目
食事処やまゆり

比内地鶏を使用したスープ。生産者から直接仕入れた五城目産あきたこまちを使用。

五城目町富津内下山内字上広ヶ野76-1
TEL.018-879-8411



FARMERS RESTAURANT

清流の森

馬場目の奥、蛇喰^{じゃばみ}に2010年にオープンした全国テレビでも紹介された話題の農家レストラン。

五城目町馬場目字蛇喰27 TEL.018-853-2577



森カレー

夏野菜を使った野菜カレー。シャキシャキした食感のミズ(ワバミンソウ)とカレーの意外な組み合わせをご賞味あれ!



清流定食

農家レストラン 清流の森の人気メニュー。地元で採れた新鮮な山菜をふんだんに使った贅沢な定食。



スギナ茶



健康に良いと話題のスギナ茶。農家レストラン 清流の森では、地元のおじいちゃん、おばあちゃんが採取したものを提供している。

「舌」も「お腹」も満足させます!!

くめもの ランチ



うのき食堂

五城目天ぶら中華の元祖的な食堂。
昔から変わらぬ味。変わらぬお店。
五城目町鷺ノ木15-11 TEL.018-852-3226

天ぶら中華

丸井食堂

菅生精肉店に併設されている食堂。お肉屋さんのとんかつを味わえる
ボリュームたっぷりの「かつ丼」が人気。
五城目町鷺ノ木15-16 TEL.018-852-2464



かつ丼

三吉食堂

昭和初期、朝市通りに面し、太平山三吉神社が由来のおそば屋さんといわれています。
五城目町下夕町53 TEL.018-852-2034



天ぶらそば

大衆食堂 一力食堂

豚肉と野菜をいためたうまみたっぷりのスープの
タンメンや小皿が並ぶ定食が人気。
五城目町字鷺ノ木18-8
TEL.018-852-3643



タンメン

五城館

昭和初期に建てられた土蔵づくりの農業倉庫を利用した施設。
カフェテリアや居酒屋、多目的ホールなどがあります。
五城目町鷺ノ木89-1
TEL.018-852-5300



自然薯うどん

料亭 松竹

具だくさんのあんかけのラーメンが人気。
ショウシンメンは辛いあんが乗ったラーメン。
五城目町下夕町43-2
TEL.018-852-3160



ショウシンメン





【キイチゴシャーベット】

冷たいキイチゴシャーベット。豆乳の隠し味でまろやかな甘酸っぱさ。
販売店 / 和(なごみ)料理 いとさん



【キイチゴかりんとう】

かりんとうとキイチゴの意外な組み合わせ。日本茶のお茶請けにぴったり。
販売店 / 伊藤菓子店、道の駅五城目 悠紀の国 五城目



【キイチゴマカロン】

甘さと酸味が絶妙。キイチゴのつぶつぶの食感もアクセントとなり、しっとりした生地との食感の違いが楽しい。
販売店 / ハチや菓子舗



【キイチゴサブレ】

甘酸っぱい風味のキイチゴジャムとサクサクの食感がベストマッチ。
販売店 / ふるさと銘菓店 長栄堂



【キイチゴメロンパン】

濃厚なクリームに負けないラズベリーの力強い味が相性抜群。
販売店 / パンの店 あったか小町



【キイチゴソフト】

なめらかな舌触りとキイチゴの風味がマッチする大満足のスイーツ。イタリア製ソフトクリーム機で製造。
販売店 / 道の駅五城目 悠紀の国 五城目

キイチゴの特産化に挑戦!

国内で流通しているキイチゴは大半が冷凍の輸入品。2008年4月、生産者ら25人が「キイチゴ研究会」を設立。秋田県立大の支援を受け、生産拡大と加工品の開発に力を入れています。



【キイチゴ最中】

サクサクな食感と鮮やかな見た目が特徴。食べた瞬間、キイチゴの甘酸っぱい酸味が口に広がり、アンコの甘味とのバランスが絶妙。
販売店 / 光新堂、道の駅五城目 悠紀の国 五城目



【キイチゴサンデー】

キイチゴの酸味が味全体を引き締め、コーンフレークのサクサクとした歯触りと相性抜群。
販売店 / みんなの店 あさいち

キイチゴ研究会 研修用ハウス



道の駅五城目に併設された「キイチゴ研究会研修用ハウス」。町のキイチゴ研究会がキイチゴ栽培の研究や指導などを行っている。



かりんとう

せんべいのような大きさのかりんとう。平べったい形の生地に黒蜜が塗られ、食べごたえもある。

販売店 / 伊藤菓子店、道の駅五城目 悠紀の国 五城目

伊藤菓子店

五城目町田町字石田六ヶ村堰添120-7 TEL.018-852-3419



揚げサンド

五城目町民のソウルフード。パンとポテトサラダを一度に味わえる一品。

生鮮村 ダイサン 五城目店

五城目町東機ノ目1丁目6-1 TEL.018-852-5101

五十目まんじゅう

赤あん和白あんをしっとりした黒糖の皮で包んでいる。

御菓子司 松月堂

五城目町田町字石田六ヶ村堰添120-7 TEL.018-852-2439



秋田諸越

元はお祭りで家に来てくれたお客さんにお土産として持たせていた五城目町伝統のお菓子。

販売店 / 草皆菓子店、道の駅五城目 悠紀の国 五城目

草皆菓子店

五城目町高崎字雀館下川原113-3 TEL.018-852-3674

五城目町の
おいしい再発見

自然豊かで美しく清らか

五城目絶景巡り

自然とともに暮らす

五城目町は豊かな自然が残る町です。南秋田郡内で最も高い山、馬場目岳（標高1,037m）には、ブナ原生林があり、森林浴やハイキング、登山に格好の環境です。

また勇壮な「三階の滝」、「白内溪谷」、「仙人峡」やテロ杉流域など、とても美しい景観があります。特に目を引くのは、大きな岩の上にブナや杉などの巨木がそびえ立つ、通称「ネコバリ岩」です。

馬場目岳の麓には、かやぶき屋根の集落北ノ又があり、蛇喰には古民家を利用した宿泊施設「益城庵」もあります。ネコバリ岩と北ノ又集落は、映画のロケ地にもなりました。

川の恵みもあつく、町には内川川、富津内川、馬場目川と三つの川が流れています。戸村堰と真崎堰の二つの用水路もあり、町や近隣の水田を潤しています。川の水は、四季それぞれに町の表情を彩っています。馬場目川上流部は、清流の証といわれるイワナやヤマメの宝庫で溪流釣りスポットとなっていて、毎年春には「みちのく溪流釣り大会」が開催されています。



1 三階の滝



2 釣りキチ三平の家
3 野鳥の森



4 白内園地

左頁 ネコバリ岩



偉人紹介

Greats of Gojōme

すばらしい先輩たち



鳥井森鈴

[1899 ~ 1979]

民謡「秋田追分」の生みの親
 現在五城目町で毎年行われている「秋田追分全国大会」は、五城目町出身で民謡歌手「鳥井森鈴」が秋田追分を作ったことに由来しています。
 大正時代に全国的に大流行した「江差追分」と古くからある秋田の民謡「追分節」を合わせて作り上げられた民謡で現在まで歌い継がれています。



矢田津世子

[1907 ~ 1944]

若くして亡くなった女流作家
 五城目町出身の芥川賞候補になった人物で、作品『神楽坂』は選考委員から「既に手腕確かな人」と作家としての力量を評されています。
 「秋扇」、「家庭教師」は映画化もされています。
 数多くの作品を残しながらも、結核で36歳の若さで亡くなりました。



木村謹治

[1889 ~ 1948]

日本のゲーテ研究の第一人者
 木村謹治は日本初の『和独大辞典』の編纂に取り組んだ人物です。
 この辞典の編纂は同僚の相良守峰と4年の歳月をかけた行われ、通称「キムラ・サガラ」の名で独和辞典の定番として今でも多くの人に愛用されています。

五城目町ホームページで「五城目町のすばらしい先輩たち」17名分を全て閲覧することができます。

http://www.town.gojome.akita.jp/kura_senpai/index.html



四ツ車大八

[1772 ~ 1809]

江戸時代、鳶職と力士の喧嘩騒動「め組の喧嘩」で中心人物となった五城目町出身の力士。



築地俊龍

[1904 ~ 1972]

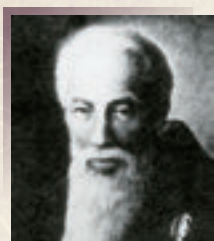
幼少期のヴィクトル・スタルヒンのピッチングコーチを勤めていた五城目町出身の野球選手。



小野源蔵

[1889 ~ 1957]

「新教育論」を著した五城目町出身の教育者。



泉谷力治

[1934 ~ 1909]

五城目町の「教育の父」。五城目小学校の前身である「森嶽学校」を設立した。



石井三友

[1808 ~ 1890]

史料性の高さから著書の多くが五城目町の有形文化財に指定されている。



舘岡栗山

[1897 ~ 1978]

秋田県文化功労者、勲五等双光旭日章を受章した画家。



渡辺彦太郎

[1817 ~ 1898]

嘉永3年の大雨による大洪水で甚大な被害を受けた馬場目川の改修工事を私財を投じて主導した。



中村徳也

[1895 ~ 1939]

薬屋を営むかたわら「五城目短歌会」を結成した秋田を代表する歌人の一人。



大石孫右衛門

[1834 ~ 1903]

洪水の被害を防ぐため、私財を投じ富津内川の改修を行った。



草皆五沼

[1891 ~ 1964]

医師業のかたわら俳句結社「黛吟社」を立ち上げる。



渡辺銀雨

[1909 ~ 1985]

全国の川柳大会で数々の賞を受賞し、川柳の会「すずむし吟社」を組織した。



近藤泰助

[1893 ~ 1962]

五城目町農民の暮らしの改善や地域医療の充実に取り組んだ。



北嶋南五

[1879 ~ 1951]

俳句の会「焼芋会」を立ち上げた名士。



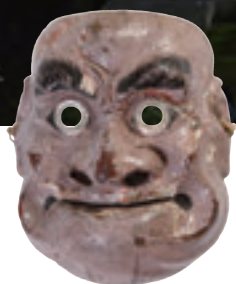
福田笑迎

[1869 ~ 1909]

画才文才に優れながらも若くして亡くなった才人。「評伝四ツ車大八」が遺稿となる。

心に残り、歴史に残る

五城目番楽競演会



山内番楽の面



中村番楽の面



西野番楽の面



恋地番楽の面

番楽は全国でもあまり例のない特殊な芸能です。番楽の始まりは、修験という山伏集団の宗教的な舞踏、神楽であったといわれています。番楽の舞は勇壮活発で、曲芸的な要素もあり、とてもエネルギーが溢れます。

町には、山内、西野、中村、恋地の四つの番楽が伝承されていましたが、現在は山内番楽だけが活動を続けています。

5月には五城目神明社神楽殿で番楽競演会が行われます。競演会は、にぎやかなおはやしと「やっさやさ、やっさやさ」のかけ声が始まります。

山内番楽は、他の番楽とともに町の無形文化財に指定されています。



山内番楽の「曾我兄弟」

五城目の風土を表現

五城目天翔太鼓

五城目天翔太鼓は、平成2年6月に設立されました。

神田明神将門太鼓の指導を受け、平成2年8月のきやどっこまつりで初披露されました。そこで披露された曲は「風」「土」「心」の三曲で構成され、五城目の風土と伝統、実り豊かな北国の叙情あふれる心の郷土が基調となっています。

以来25年にわたって、町内外のさまざまなイベントに出演し活動を続けています。



郷土の四季と女性の愛と悲しみを歌い上げる

森鈴旗争奪秋田追分全国大会

毎年7月に、正調秋田追分の正しい伝承と保存、普及を目的に「秋田追分全国大会」を開催しています。五城目町がこの大会の会場になるのは、民謡「秋田追分」を完成させ普及に努めた民謡歌手「鳥井森鈴（とりのしんれい）」がこの町の出身であることにちなんでいます。

秋田追分は、秋田の四季や秋田の女性の愛と悲しみを歌い上げます。



秋田追分全国大会の様子と民謡「秋田追分」を歌う鳥井森鈴。

矢田津世子文学記念館

矢田津世子は昭和初期に活躍した女流作家です。明治40年に下夕町で生まれ、小学2年生まで五城目町で過ごしました。作品『神楽坂』は芥川賞候補作に上がり、受賞は逃していますが、選考委員の川端康成は「既に手腕確かな人」と津世子の力量を評しています。

文学記念室では、津世子の執筆原稿や愛用品などが展示され、その業績を後世に伝えています。



森林資料館「五城目城」

五城目城は、町を見おろす前平山にあります。中世末には藤原(五十目)内記秀盛の砂沢城があったところで、頂上本丸跡に建てられました。

内部は森林資料館となっており、町の木材産業の生い立ちがわかる道具や当時の写真が展示されているほか、林業とのつながりが深い鍛冶や桶樽などに関連した展示がされています。



五城目城外観



五城目城内観

心と体をじっくり癒す

五城目温泉めぐり

赤倉山荘
悠紀の湯

美人の湯鶴の湯伝説

江戸時代から続く温泉で、「一羽の鶴が傷を癒していたことから発見された」という伝説が残っています。泉質はアルカリ性で、アトピーなどの皮膚病や腰痛に効果があります。食事もおすすめで、名物だまご鍋は2014年のだまご鍋合戦で「だまご御前」の称号を獲得しました。



〒520-0101 五城目町富津内中津又字滑多羅3-7
TEL.018-854-2969

泉質 ナトリウム-炭酸水素塩泉pH9.1

効能 きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病

温泉コラム

赤倉山荘鶴の湯伝説

赤倉山荘の前を流れている川は、富津内川の支流北口川です。北口川の枝沢である滑多羅沢の上に、伝説で名高い鶴の湯が湧いており、赤倉山荘ではこの鶴の湯を引湯しています。

鶴の湯の伝説

昔々、ある猟師が山に入りましたが、その日はどういわけかウサギもヤマドリもとれません。男はがっかりして猟を早めにきりあげ、家路につくことにしました。

は、一日一日とよくなっていくようでした。五日目になると鶴はどこかへ飛んでいってしまったらしく、泉のほわりには美しい羽が二、三本落ちていただけでした。

滑多羅沢にさしかかると、ハタハタという鳥の羽音が聞こえてきました。猟師ははっとして足を止め、やぶの向こうの林の間を凝らして見ると、大きな鶴が岩の間の泉にどつぷりと身体をひたし、さかんに羽をばたつかせ、泉の水を浴びていました。

次の日もその次の日も、男は山をおりるとき泉にこっそり近づき鶴の様子をうかがいました。鶴の羽の傷

村人たちは、この泉からわき出る水は、手ですくうとつるつるすること、汚れた衣服などを洗うと汚れがよくとれ、漂白されるといふことを知っていました。しかし猟師は「傷にも病気にも効く感じがいない」と考え「鶴の湯」と名付けて沢に湯治場を開きました。すると傷にも病気にもよく効き、その上、女性は肌が白くなり美人になれるということが知れたり、全国各地から湯治客が殺到するようになりました。



湯の越の宿

乳白色の硫黄温泉



住 五城目町内川浅見内字後田125-5 TEL.018-854-2683

泉質 塩化物泉、硫黄泉含硫黄-ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩温泉pH7.6

効能 きりぎりず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病、糖尿病、高血圧症、動脈硬化症

秋田県内でも珍しい乳白色の本格硫黄温泉。

Ph 7.6の柔らかな泉質の温泉で傷などに沁みることなく長く入浴を楽しむことができます。

館内は木のぬくもりに溢れ、冬になると薪ストーブのバチバチ音を立てて燃える音が日常の喧騒を忘れさせてくれます。

小倉温泉旅館

無色透明なめらか温泉



住 五城目町富津内下山内字猿田沢24 TEL.018-852-2440

泉質 炭酸水素塩泉、ナトリウム-炭酸水素塩温泉pH8.9

効能 きりぎりず、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症

泉質はナトリウム-炭酸水素塩泉、無色透明でツルツルしたお湯で体が芯から温まります。

浴室からは薬師山を望むことができます。



広域五城目体育館 (秋田周辺広域市町村圏五城目体育館)

昭和50年11月20日完成。雀館運動公園に立地。各種大会会場として使用されている。

☎ 五城目町上樋口字堂社75
TEL.018-852-4411 / FAX.018-852-4414



町民センター (五城目町開発センター)

昭和50年11月20日完成。雀館運動公園を管理し、中央公民館、五城目地区公民館を兼ねる。

☎ 五城目町上樋口字堂社75
TEL.018-852-4411 / FAX.018-852-4414



五城目町役場

昭和57年10月完成。銅版葺き、鉄筋コンクリート地下1階(一部)、地上4階、延べ床面積8,056平方メートル、国道285号と県道秋田八郎潟線の交差点に面している。

☎ 五城目町西磯ノ目1丁目1-1
TEL.018-852-5100(代) / FAX.018-852-5399



屋内温水プール

平成27年2月25日大規模改修が完成。日本水泳連盟25歳以下公認プール。

☎ 五城目町上樋口字堂社75
TEL.018-852-4411 / FAX.018-852-4414



相撲場

平成11年8月8日完成。雀館運動公園に立地。

☎ TEL.018-852-4411 / FAX.018-852-4414



弓道場

昭和56年4月29日完成。雀館公園内に立地。

☎ TEL.018-852-4411 / FAX.018-852-4414



馬場目ふれあいセンター (馬場目地区文化交流センター)

平成3年4月30日完成。馬場目地区公民館。

☎ 五城目町馬場目字蓬内台117-1
TEL.018-853-2121 / FAX.018-853-2121



屋内ゲートボール場「すばく五城目」

平成4年5月20日完成。

☎ 五城目町上樋口字樽沢193
TEL.018-852-3571



文化の館

平成7年6月25日完成。

☎ 五城目町上樋口字山田沢(環境と文化のむら内)
TEL.018-852-5290



農村環境改善センター

昭和53年12月20日完成。大川地区公民館。

☎ 五城目町大川下樋口字屋敷下3-2
TEL.018-875-5067 / FAX.018-874-8525



総合生きがいセンター

平成6年4月20日完成。内川地区公民館。

☎ 五城目町内川湯ノ又字苗代沢93-1
TEL.018-854-2314 / FAX.018-853-1732



富津内地区公民館

平成6年4月20日完成。

☎ 五城目町内川黒土字千刈台7
TEL.018-854-2121 / FAX.018-853-1629



杉沢交流センター友愛館

平成18年4月1日開設。

📍 五城目町馬場目字杉沢下台59-1
TEL.018-853-2320 / FAX.018-853-2446



馬川交流センター

(高齢者等活動・生活支援促進機会施設)

平成3年12月20日完成。馬川地区公民館。

📍 五城目町高崎字前田81
TEL.018-855-1175 / FAX.018-855-1175



森山地区公民館

平成3年12月20日完成。

📍 五城目町小池字森山下147
TEL.018-852-4421 / FAX.018-853-1394



五城目朝市ふれあい館

平成23年5月12日竣工。

📍 五城目町字下夕町182
TEL.018-852-5110 / FAX.018-852-5115



総合交流センター「五城館」

平成7年4月2日開館。

📍 五城目町字轟ノ木89-1
TEL.018-852-5300 / FAX.018-852-5310



五城目町地域活性化支援センター

平成26年10月28日開館。

📍 五城目町馬場目字蓬内台117番地1
TEL.018-853-5155 / FAX.018-853-5156



斎場

平成2年4月24日業務開始。

📍 五城目町字稲荷前83-1
TEL.018-852-3527



蛇喰「盆城庵」

平成5年7月23日開館。

📍 五城目町馬場目字蛇喰27
TEL.018-853-2577 / FAX.018-853-2577



森林資料館「五城目城」

昭和59年6月2日開館。

📍 五城目町字菟品沢62-1
TEL.018-852-3110



道の駅五城目 悠紀の国 五城目

平成13年8月1日開設。

📍 五城目町富津内下山内字上広ヶ野76-1
TEL.018-879-8411 / FAX.018-879-8412



ストックヤード

平成22年11月19日旧清掃センターを改修し完成。

📍 五城目町内川小倉字屋布沢27
TEL.018-852-5112 (住民生活課)



クリーンセンター

昭和63年4月1日業務開始。

📍 五城目町富津内中津又字入通沢14-1
TEL.018-854-2040 / FAX.018-893-6523

60年の軌跡

History in
60year

町制施行60周年を記念して、
町の歴史を振り返るとともに、
町内で暮らす子どもたちの
「五城目町への思い」を
ご紹介します。

記念作文最優秀作品 小学校の部

「五城目町の未来が

よりよくあるために」

五城目小学校 六年

今の五城目町には若者が少なくお年寄りがたくさんいます。このままでは、将来、五城目町の人口は減ってしまいます。人口を減らさないために、私たちにできることは何でしょうか。真っ先に思いついたのは、CMや広告で五城目町の特産物や自然の良さなどをPRすることです。なぜなら、五城目町には、自慢できるいいところがたくさんあるからです。

まずは、豊かな自然に目を向けてみましょう。高さ6メートルもある大岩。その上にはたくさん木が生え、岩の一部はどっしりと地面に腰を下ろしています。そうです、ネコバリ岩です。すぐ横を流れる川は、真夏でもとても冷たくて、街中ではなかなか見ることのできない生き物たちもたくさん住みついています。ネコバリ岩への道中には、映画「釣りキチ三平」に使用されたかやぶき屋根の古民家があり、昔にタイムスリップした気分です。

五城目町の自然をPRする上で欠かせないのは、やはり森山でしょう。朝一番に訪れると、新鮮な空気が体を癒し、気持ちのいい一日をスタートさせることができます。昼は五城目町を一望することができるだけでなく、秋田市や男鹿半島まで見渡すことができます。夜、車で山頂を目指すと、時おり野生の動物たちが出迎えてくれます。頂上からは、オレンジ色の町の灯があちらこちらに光り、とてもきれいです。

歴史と産業も、町の魅力の一つです。市神をまつる朝市は、五百二十年もの間、歴史が受け

継がれてきました。出

店している人たちはとても

優しく、人情味にあふれています。

花や山菜、キイチゴに梨など季節によつ

て様々な商品が並べられます。高齢化が進み、

出店数も減ってきていますが、いつも元気に出

店しているおばあさんたちからは、小学生の私

のほうがパワーをもらおうほです。

環境と文化のむらの一帯は、県の「野鳥の森」に指定されていて、野鳥の観察ができる他に森に関する指導員の方からは、昆虫や植物の解説や案内を受けることもできます。さらに、森の木の実などを使った工作を体験できる所もあり、子どもから大人まで楽しむことができます。さらに、日本でも数少ない鳥獣保護センターでは、北海道や北東北の動物が保護されているため、運が良ければ珍しい動物を見ることが出来ます。

こんなにすばらしい自然、歴史や産業、施設があるのに、人口が減っていくのは、もったいないし残念なことです。五城目町が今よりもにぎわい、活気のある町にするために、まずは町民である私たちが、もっと町のことを知り、広く多くの人たちにそれを伝え、「行ってみよう」「住んでみたい」と思ってもらえるように働きかけなければいけないと思います。町民一人一人が自分の役割を見つけ、伝統を守りぬぎ、未来へとバトンをつないでいけたらいいと思います。





絵：館岡栗山（五城目町役場所蔵）

「五城目町の未来」

五城目第一中学校 一年

今年で、五城目が合併してから60周年を迎えました。これを機に、五城目のいい所を振り返ってみたいと思います。

一つ目は、なんといっても自然が豊かな所です。どんな所においても、辺りを見渡せば、必ず秋田県・五城目の木である杉の木が見えます。私も含めて花粉症の人には、杉の木がきらいな人が多いのですが、私はこの木を見るとあたたかい気持ちになるので大好きです。他にも、五城目町の名所である、釣りキチ三平のロケ地にもなった「ネコバリ岩」が五城目町の大きな特徴である自然を示しています。ネコバリ岩は自然がもたらした造形で、周囲にはきれいな水が流される沢があります。自然そのものが名所なことが、五城目町は緑豊かなことを示していると思います。

二つ目は、長い歴史を持った朝市です。朝市の始まりは、馬場目の地頭が家臣に命じ、町村に「市神」をまつらせ、そこに「市」を開いたことからだといわれています。市が開かれたのは、今から約500年前だといわれています。朝市は主におじいさん、おばあさんが商売をしています。それぞれの家で採れた新鮮な野菜や、新鮮な魚、自家製の梅干しや漬け物、花などが売られています。朝市市場のおやきや大ばん焼きも手に入ります。朝市の中でも一番好きな所は、やっぱりおじいさんおばあさんの笑顔です。こちらが話しかけられなくても、にっこりして先に話しかけてくれます。そして買い物をした時には、たいていのみなさんがおまけを付けてくれま

す。それは商品だったり、値段を下げてくれることもあります。私が以前お花を買ったら、買った量の2、3倍ぐらいいはありそうなお花をおまけに付けて下さいました。傷が付いた花をおまけしたのかと思っても、ふつうの花と変わらないきれいなお花ばかりでした。とてもうれしくなって、すぐに家に帰って花びんに生けました。

五城目町は、自然と優しい人たちがあふれているとても良い町だと思います。私は小学生になる少し前まで、追分の方に住んでいました。追分も緑があるにはあったのですが、どこにいても見えるというほどではありませんでした。見えるのは高い建物のすきまに見える看板ぐらいで、移り住んでからしばらくはその光景が見えなくなるとてもいやでした。それに比べて五城目町は緑がたくさんあって、すごく開放感があるので追分よりもずっとずっと大好きな町です。

私は将来、就職しても五城目から職場に通おうと思います。五城目はとつてもすてきな町だと思うからです。これからは、この町の自然を生かした事業でこの町が発展していくと思います。





第2代（昭和32年6月～昭和36年2月）・
第5代～9代（昭和44年2月～平成元年2月）町長 加賀谷力司氏



大川地区で分町賛否投票を実施



分町賛成・反対を訴える大川地区のデモ
（昭和32年3月）

1958

昭和33年

1957

昭和32年

12月	10月	9月	8月	7月	6月	4月	3月	12月	11月	10月	6月	5月	4月	3月	2月	
杉沢中学校校舎が竣工。 <small>しんざく</small>	第4代町議会議長に猿田忠三郎氏、副議長に小玉太美雄氏就任。	五城目地区町議会議員の再選挙。	第1回戦没者合同慰霊祭を五城目小学校で行う。	家畜管理所、食肉処理加工所の事業開始。 五城目中学校と富津内中学校（西教場）が統合し、五城目第一中学校が開校。	役場に電話交換台を設置。	五城目町に面瀉地区の野田、岡本、浦横町、小立花、宮花が編入合併。 H	面瀉地区の一部で住民投票執行。八郎潟町からの分町が決定する。各地区の財産区を廃止する。	秋田相互銀行五城目支店が新築移転。	森山に希望の塔が建てられる。 G	第1回秋田県森山登山競技会を実施。	五城目と八郎潟の分町争いで32人の学童の学籍がなくなる。	第3代町議会議長に畠山松太郎氏、副議長に猿田忠三郎氏就任。司氏当選。 F	野田、岡本、浦横町で八郎潟分町の第1回賛否投票実施。 菊地米蔵町長辞任に伴う町長選挙執行。第2代町長に加賀谷力司氏当選。	大川地区で分町賛否投票を実施。 D E 町商工会設立総会開催。	五城目小学校へ野田、岡本、浦横町地区児童114人が転校。 五城目統合中学校第1期工事に着工。（総工費1,450万円）	砂沢古窯跡が県史跡に指定。 C

五城目町への思い

五城目小学校 5年

朝市は古くからやっていて、いろいろなものが売られています。季節によってちがう果物や野菜が並びます。小学校で朝市の店番をしたときに、大きな声で呼びかけたらどんどん売れてって、知らないおばあさんと話もはずみました。町の自慢の朝市がずっと続いてほしいです。



昭和33年4月に編入合併した旧面瀉村の野田・岡本・浦横町・小立花・宮花付近

写真は平成27年撮影



森山の2高地に建てられた「希望の塔」



役場庁舎を旧五城目中学校校舎に移転

役場庁舎を雀館の旧五城目中学校校舎に移転。昭和57年まで使用。



五城目第一中学校が
広ヶ野の新校舎に移転



1960

昭和35年

1959

昭和34年

11月	10月	9月	6月	4月	3月	2月	1月	12月	11月	8月	6月	4月	3月	1月	
岩野山で奈良時代の勾玉、葎手太刀などを発掘。(翌年から2年間発掘調査を実施)	抛出年金制度が始まる。	新五城目町章、新五城目町民歌、五城目音頭制定。 E 新畑町地内の県道舗装工事が完成。	農業委員選挙区を3区制に、定数は20人となる。 し尿処理事業が清掃事業の事項に追加される。	町政協力員制度を実施。 第5代町議会議長に木村喜太郎氏、副議長に佐藤邦彦氏就任。 町上水道事業を創設。	大川出張所を設置。 黒土、小倉地区が富津内西小学校校区に編入となる。	馬場目、富津内、内川、大川各支所を廃止。	地方財政再建特別措置法の適用団体の指定解除。 町議会議員選挙執行。(大選挙区制、定員30人)	森山のスズムシ群生地が県天然記念物に指定。	馬場目地区の寺庭、中村、杉沢に町営簡易水道が通水。	富津内中学校校舎が竣工。 D	国民年金制度実施。(老齢福祉)	全国高校レスリング大会を五城目第一中学校校舎で開催。 三笠宮殿下ご来町。	第2代助役に伊藤卓治氏を選任。	五城目第一中学校が広ヶ野の新校舎に移転。 B 役場庁舎を旧五城目中学校校舎に移転。 C	第2代収入役に加藤己之松氏を選任。 五城目瀬戸座製「水注」が県重要文化財に指定。 広報五城目創刊。 A

E



合併5周年を記念し制定した町章

D



富津内中学校校舎が竣工

五城目町への思い

五城目小学校 5年

祖父は矢を作る伝統工芸師です。祖父の他にも職人が増えて、町の知名度が上がればいいなと思います。朝市に来た人が、買い物をするだけでなく、町の文化や伝統にも興味を持ってもらい、町の良さを感じてもらえたらいいなと思います。いつまでも笑顔が絶えない町にしたいです。





昭和36年当時の五城目消防署（川原町）



第3代（昭和36年2月～昭和40年2月）
町長 北島金森氏



町上水道が通水

本町初めての上水道が通水。稲荷前に配水池を設け、最初に通水したのは、500戸であった。現在の給水人口は9,823人となっている。写真は、その後増築した浄水場。

1962

昭和37年

1961

昭和36年

11月	9月	7月	5月	4月	2月	1月	11月	10月	7月	2月	1月	
※この年、中津又林道軌条を撤去し廃道とする。	杉沢へぎ地出張診療所が竣工。	五城目養老院創立10周年記念式典を開催。	馬場目保育所を開所。 町道山手線が開通。（延長1,460 ^{メートル} ） I 日米高校レスリング大会を五城目第一中学校体育館で開催。 第1回高松宮杯東北高校レスリング大会を五城目第一中学校体育館で開催。	第6代町議会議長に佐藤邦彦氏、副議長に分銅瑞穂氏就任。 町上水道が竣工。（通水戸数1,250戸）	行政苦情相談協力員を設置。	農協合併問題研究会が開かれる。 インフルエンザが猛威。対策会議が開かれる。	児童扶養手当法が施行。 保呂瀬橋が竣工。（五城目営林署施行）	五城目、上小阿仁間のバス運行が開始。	第16回国体レスリング大会を五城目第一中学校体育館で開催。 高松宮殿下ご来町。国体関連行事を開催。（国体旗リレーが本町に入る。上町荒川マサ氏宅で物産展示会を開催。ブラスバンド、鼓笛隊が町内を行進。郷土色豊かな前夜祭を五城目小学校体育館で開催。民泊も実施し、旅館7軒と民家50世帯に518人が宿泊）	秋田土木事務所五城目出張所が役場庁舎内に移転。 消防署に火災専用電話を設置。 H	町長選挙執行。第3代町長に北島金森氏当選。 G	町上水道が通水。（通水戸数500戸） F 公用文書の左横書きを実施。

五城目町への思い

五城目小学校 5年

番楽を習い始め、神明社で毎年舞をひろうしています。参加するだけでなく、自分から伝えていく努力も大切だと思うようになりました。朝市やお祭りなどの行事に関心をもってくれる人が増えていけばいいなあと思います。古からの伝統を受け継ぐ町になってほしいです。



当時の八郎潟駅と五城目駅を結ぶ五城目軌道を走る電車



町道山手線が開通

町道山手線が開通。（延長1,460^{メートル}）現在は国道285号となっている。



鳥井森鈴民謠碑を雀館公園に建立



岩野山古墳群が県史跡に指定



雀館古代井戸が県史跡に指定

1964

昭和39年

1963

昭和38年

12月	10月	7月	6月	5月	4月	3月	12月	10月	9月	6月	5月	4月	3月	2月
久保橋が竣工。(長さ50・6トナリ)	町塵芥処理場が竣工。 D	町立築地町児童館が竣工開館。	第1回全町老人福祉大会を開催。	第1回全町教育振興大会を開催。	第8代町議会議長に小玉太美雄氏、副議長に栗山銀之助氏就任。	町家畜管理所、同食肉処理加工所を廃止。 町議会議員選挙執行。	火葬場を改設。 県道五城目八郎潟線直線化に着手。	浅見内谷地田橋が竣工。 第1回全町植樹祭を開催。	杉沢保育所、富津内保育所を開所。 国土調査開始。(4か年計画)	助役に小林源四郎氏を再任。	鳥井森鈴民謠碑を雀館公園に建立。 C	第3代収入役に館岡斌郎氏を選任。	久保金屋座の発掘調査を実施。 第7代町議会議長に宮城精市氏就任。	雀館古代井戸が県史跡に指定。 A 岩野山古墳群が県史跡に指定。 B



第4代(昭和40年2月~昭和44年2月)
町長 小林源四郎氏



昭和39年ころの難所割山峠



町塵芥処理場
が竣工

町塵芥処理場が完成。昭和59年3月清掃センター完成まで使用。



C 初の誘致企業、秋田末広繊維工業（株）五城目工場が操業開始



B 五城目小学校が現在地（字羽黒前26）に新築完成



A 森山山頂にマイクロウェーブ中継所が完成

1968

昭和43年

1967

昭和42年

12月	11月	9月	8月	6月	4月	3月	12月	11月	6月	4月	3月	2月
町立養護老人ホーム森山荘が新築移転。（定員50人） F	五城目小学校が新築竣工。五城目第一中学校増築工事竣工式。消防署が新築移転。 E	湖東病院が移転竣工。（八郎潟町川崎） D	第4代助役に館岡斌郎氏を選任。 第1回新成人のつどい（成人式）を開催。 第4代收入役に若松正氏を選任。	富津内脇乙地区に簡易水道を新設。 初誘致企業、秋田末広繊維工業（株）五城目工場が操業開始。 C	第10代町議会議長に工藤孝二氏、副議長に荒川豊治氏就任。 五城目小学校分校舎、富津内西小学校分校舎を廃止し、新校舎に移転。 B	町立内川児童館が竣工開館。 町議会議員選挙執行。（投票率92・82%）	消防署に消防無線電話を設置。 町議会議員の定数を30人から24人に変更。	町農協第1回農業祭が開催。 第1次石崎遺跡発掘調査を実施。 第1回青年議会が開催。	森山にマイクロウェーブ中継所が竣工。 A	五城目小学校と富津内西小学校が統合。それぞれ分校舎となる。 五城目第一中学校と内川中学校が統合。	町表彰条例を制定。	菅江真澄の自筆稿本「玉勝間拾珠抄」が伊藤源一郎氏宅で見られる。



E 消防署が今町に新築移転

写真は平成25年撮影

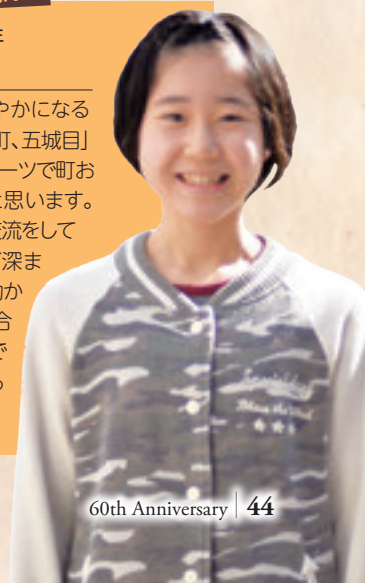


D 八郎潟町川崎に湖東病院が移転

五城目町への思い

五城目小学校 6年

町がもつとにぎやかになるために「スポーツの町、五城目」をスローガンにスポーツで町おこしをしたらいいと思います。スポーツを通じて交流をすれば人との絆が深まるはず。体を動かして楽しく協力合うことで、笑顔でいっぱいになると思います。





秋田中央交通五城目軌道廃止

大正11年（1922年）から五城目駅と一日市駅間を走りつづけた五城目軌道が48年の歴史に幕を下ろした。



町立養護老人ホーム森山荘が上樋口樽沢に新築移転

1970

昭和45年

1969

昭和44年

12月	11月	10月	9月	8月	7月	4月	3月	2月	12月	7月	5月	4月	3月	2月	1月
社会福祉法人五城目町社会福祉協議会が発足。	本町で第93回秋田県種苗交換会を開催。（参加者37万2千人）	国勢調査実施。（人口17,415人、世帯数3,900世帯）	五城目小学校グラウンドが完成し全町体育祭を開催。竣工式とする。	昭辰橋永久橋が竣工。五城目幼稚園児75人が渡り初め。	第11代町議会議長に菊地耕二氏、副議長に畠山豊氏就任。	五城目町外3か町村伝染病隔離病舎を新築。 公民館の機構改正。五城目公民館と分館に改称。	富津内東小学校を富津内小学校に改称。 県道秋田森吉間が国道285号線に昇格。 五城目小学校と馬川小学校が統合。 ごみ処理方法をポリ袋、標せん方式に改善。	町総合開発計画を策定。 交通指導隊条例を制定。指導隊が制度化。 財団法人五城目町開発公社が設立認可。 町村合併15周年記念式典を挙行。	集落再編成促進条例を制定。下北口、大場、滝ノ下の移転を進める。	秋田中央交通五城目軌道廃止で「軌道をしのぶ会」を開催。GH	五城目神明社で番楽競演会を開催。	五城目第一中学校と馬場目中学校が統合。	五城目森林組合が発足。（五城目町森林組合へ八郎潟町森林組合を吸収合併）	町長選挙執行。第5代町長に加賀谷力司氏当選。（投票率88・49%）	町立養護老人ホーム、町消防庁舎、町立富津内児童館、富津内公民館の合同竣工式を実施。

五城目町への思い

五城目小学校 6年

かやぶき屋根の古民家と自然を利用して映画村をつくつたらいいと思います。また、町の豊かな自然を生かして、キャンプ場や森山登山などのアウトドアができる所がいっぱいあるといいです。豊かな自然と楽しいことがいっぱいあったらいいと思います。



第93回秋田県種苗交換会を開催



五城目小学校と統合した馬川小学校の校舎



恋地国設スキー場が開設



五城目宮林署杉沢森林鉄道が廃止



第1回「こどもの祭典」を実施

1972

昭和47年

1971

昭和46年

11月	9月	8月	7月	5月	4月	3月	2月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	4月	3月	2月
第2次石崎遺跡の発掘調査を実施。 F	秋田周辺広域市町村圏が設定。 北北口町内に簡易水道が新設、通水。	消防署に救急車を配置。救急車による救急業務を開始。	太平洋山県立自然公園が指定。9番目の県立自然公園が誕生。	郡境の部分林630 ^{ヘクタール} 植林達成を記念し、「空に青雲、山々緑」の記念碑を建立。除幕式を実施。 E	第12代町議会議長に菊地耕二氏、副議長に宮田清三郎氏就任。 町単独の児童扶養制度を発足。(1歳未満の乳児に医療費を給付)	町議会議員選挙執行。(投票率92・7%) 資幹旋に関する条例を制定。	恋地国設スキー場が開設。 C	秋田周辺広域市町村圏促進協議会が発足。 五城目保育園が設立認可。	五城目第一中学校で給食開始。(町内小中学校で100%給食実施)	五城目宮林署杉沢森林鉄道が廃止。30年の歴史を閉じる。 B	第1回「こどもの祭典」を実施。 A	富津内落合簡易水道が竣工。	山村振興区画整理事業を着工。 浦横町簡易水道が竣工。	社会福祉法人五城目町社会福祉協議会の事務局が発足。 町公民館馬川分館が誕生。	馬場目北ノ又分校の廃校式を行う。	第5代助役に伊藤卓治氏を選任。



石崎遺跡の発掘調査
第2次石崎遺跡の発掘調査を実施。



郡境の部分林630^{ヘクタール}植林達成を記念し、「空に青雲、山々緑」の記念碑を建立。除幕式を実施



社会福祉法人五城目保育園が(字七倉)に開園



新畑町に五城目町農業協同組合農協会館が完成



記録的な49年豪雪（写真は朝市通り）



秋田県鳥獣保護センターが竣工

1974

昭和49年

1973

昭和48年

11月	10月	9月	7月	4月	3月	2月	12月	10月	8月	5月	4月	3月	2月	1月
町開発センター、広域市町村圏五城目体育館の起工式を実施。	湖東病院を湖東総合病院に改称。	五城目小学校創立100周年式典を実施。	福祉バス「森山号」がスタート。K 第3次岩野山古墳群の発掘を実施。 第1回社会福祉大会を開催。 第1回老人スポーツ大会を開催。 高額療養費支給制度が実施。	町農産指導センターを設置。 第13代町議会議長に菊地耕二氏、副議長に齊藤三四郎氏就任。	大川中学校を廃校。大川幼稚園を廃園。J 第2次町総合発展計画を策定。	町農産協同組合農協会館が竣工。I 町農産協同組合農協会館が竣工。I 宣言。G 記録的な豪雪のため豪雪対策本部を設置。豪雪非常事態防災を宣言。G	町都市計画事業磯ノ目地区土地区画整理事業が認可。	第3次石崎遺跡の発掘調査を実施。	山内番楽ほか9件を町文化財に指定。	岩野山保健保全林に秋田県鳥獣保護センターが竣工。G 常陸宮殿下、同妃殿下を迎え開場。G	児童手当の支給制度を実施。乳幼児（2歳未満）の医療費給付制度を実施。 第5代収入役に若松正氏を選任。	秋田周辺広域市町村圏協議会が設置。 農村地域整備促進対策事業の実施地域に指定。	町長選挙執行。第6代町長に加賀谷力司氏が無投票当選。	70歳以上の医療費無料化を実施。

五城目町への思い

五城目小学校 6年

お祭りで町をアピールしたいと思っています。季節ごとにお祭りがありますが、各家庭の郷土料理のお祭りがあったら、ふれあいの場にもなって、たくさんの人が楽しめると思います。お祭りを通じて町のよさを知ってもらい、自慢の町にしていきたいです。



福祉バス「森山号」がスタート
福祉バス「森山号」の運行を開始。



大川中学校を廃校、大川幼稚園を廃園し、記念式典を開催



町躍進20周年記念年式典を開催



内川小学校創立100周年

内川小学校100周年記念式典を開催。



馬場目小学校創立100周年記念式典開催

1976

昭和51年

1975

昭和50年

12月	11月	9月	6月	4月	3月	1月	12月	11月	10月	9月	7月	3月	2月	1月
大川小学校創立100周年記念式典を開催。	中核林業振興地域に指定。 町、農協、商工会の三団体による統一産業祭「第1回五城目町産業文化祭」を開催。	富津内小学校創立100周年記念式典を実施。 E 五城目婦人会創立30周年記念式典を実施。	中核林業振興地域特別対策事業地域に指定。	町農業協同組合と各支所を町の収納代理金融機関に指定。 第14代町議会議長に佐々木輝雄氏、副議長に畠山勘五郎氏就任。	富津内地区コミュニティセンターが竣工。 町議会議員選挙執行。	神明前公営住宅8棟が完成。 町議会議員選挙執行。	町躍進20周年記念式典を開催。(合併20周年、町開発センターと秋田周辺広域市町村圏五城目体育館竣工を記念) C D 町公民館事務室を広域五城目体育館へ移転。	町連合青年会設立20周年記念式典を挙行政。	磯ノ目地区土地区画整理事業に着手。 町農業協同組合合併設立10周年記念式典を開催。	内川小学校創立100周年記念式典を開催。 B	農村総合整備モデル事業を採択。	五城目町史を発行。	馬場目小学校創立100周年記念式典を開催。 A	第6代助役に伊藤卓治氏を選任。



富津内小学校創立100周年記念式典を開催



町民センター、広域五城目体育館が完成

五城目町への思い

五城目小学校 6年

五城目町は自然が豊かで、朝市があり、おいしい食べ物がたくさんあります。近所の人たちも、優しく声をかけてくれます。キイチゴの色を活かして染物してみるのもいいと思います。「自然」「人の温かさ」「食」で、笑顔のあふれる町になったらいいと思います。





H 杉沢小中学校寄宿舎で親元を離れて生活



G 恋地スキー場にシュレップリフトが竣工

恋地国設スキー場にシュレップリフトが完成。勾配25度、スロープ500mの初心者からベテランまでが楽しめるスキー場となった。



F 県立五城目高等学校が西野字田屋下に移転

1978

昭和53年

1977

昭和52年

12月	10月	9月	8月	7月	5月	3月	2月	1月	12月	10月	8月	6月	3月	2月
農業総合整備モデル事業農村環境改善センターが竣工。J	富津内中学校創立20周年記念式典を実施。	工藤政志選手に町栄誉賞を贈る。	工藤政志選手がジュニアミドル級世界ボクシングチャンピオンに。	都市計画公園杉ヶ崎墓苑築造工事に着手。	大川小学校校舎改築工事が竣工。I	五城目テレビジョン中継放送局が完成。 町条例を制定。90歳以上の方々に祝い金を支給。(4月1日施行) 雀館運動公園運動広場が完成。	第15代町議会議長に荒川豊治氏就任。 第1回子ども雪まつりを五城目小学校グラウンドで開催。	杉沢小中学校寄宿舎の入舎式を実施。H	恋地国設スキー場にシュレップリフトが竣工。G	五城目第一中学校創立30周年記念式典を実施。	県立五城目高等学校が大川西野字田屋下へ移転。F	町民センターの彫刻「森の精」が完成。 新観光秋田30景で森山森林公園が第6位に。 秋田・五城目連絡峰越林道開通竣工式を挙行。	第6代収入役に千田金之助氏を選任。 森山森林公園が完成。	町長選挙執行。第7代町長に加賀谷力司氏が無投票当選。

五城目町への思い

五城目小学校 6年

若い人が集まるような、町の自然を生かしたテーマパークを作ればいいと思います。観光客が増えて、五城目のよさを知って住みたいと思う人がでてくるかもしれません。働く場所も増えると思います。活気のある町になるように、思い切ったアイデアを考えていきたいです。



J 農業総合整備モデル事業農村環境改善センターが下樋口に完成

現在は大川地区公民館として利用。



I 大川小学校校舎改築工事が竣工

時計台のある学校として親しまれる。



秋田中央交通バスターミナルが開設

写真は平成27年撮影



屋内温水プールが竣工



赤倉山荘が竣工

林業協業センター赤倉山荘が完成。
9月11日にオープン。

1980

昭和55年

1979

昭和54年

12月	11月	10月	9月	8月	4月	3月	12月	11月	10月	7月	6月	3月	2月
五城目警察署が新築竣工。(字七倉178-4)	町躍進25周年記念式典を開催。 目	五城目幼稚園創立30周年記念式典を開催。	国勢調査実施。(人口1万5,953人、世帯数3,930世帯)	合併25周年記念NHKふるさとの民謡を収録。	総合体育大会制度25周年を記念し、第1回全町水泳大会を開催。	内川保育園を開設。 目	第16代町議会議長に荒川豊治氏、副議長に伊藤勇蔵氏就任。	おせと会館が秋田地方事務局五城目出張所移転跡に竣工。	おせと会館が秋田地方事務局五城目出張所移転跡に竣工。	おせと会館が秋田地方事務局五城目出張所移転跡に竣工。	おせと会館が秋田地方事務局五城目出張所移転跡に竣工。	おせと会館が秋田地方事務局五城目出張所移転跡に竣工。	おせと会館が秋田地方事務局五城目出張所移転跡に竣工。



町躍進25周年記念式典を開催

町躍進25周年記念式典を広域五城目体育館で開催。



内川保育園を開設

4月10日に1回目の入園式を開催。

五城目町への思い

五城目第一中学校 1年

あいさつを通じて人と人の繋がりを今以上に大切にすること、あたたかいふれあいのある朝市を残していくことで、にぎやかで楽しい町になると思います。朝市まつりのような魅力的なイベントも考えてみたいと思います。町の魅力をたくさん伝えたいです。





H 中央線が開通

県道15号秋田八郎潟線の五城目保健所、馬城橋間の846メートルが開通し、開通式を行う。



G 森山山頂に希望の鐘が完成



F 西磯ノ目に五城目保健所が完成し、新畑町から移転

1982

昭和57年

1981

昭和56年

11月	10月	9月	8月	7月	6月	4月	12月	11月	10月	8月	7月	4月	3月	2月	1月
役場庁舎が新築落成。一般見学者は1万6千人を超える。J	役場庁舎を現在地に移転。	旧役場庁舎での最終町議会定例会が終了。 大川出張所の廃止が決定。	町農協カントリーエレベーターが竣工。 町農協センターエレベーターが竣工。	中山遺跡の発掘調査を実施。 野田、岡本、浦横町地域の呼称を森山地区に統一。	地域休養センター恋地山荘が竣工。 第17代町議会議長に荒川豊治氏、副議長に佐々木善蔵氏就任。	雀館公園に日本庭園が完成。I	中央線の五城目保健所、馬城橋間846メートルが開通。H	馬場目川沿いにランニングロードが完成。 町農協合併設立15周年農協祭が開催。	国道285号線秋田峠トンネル、三大橋が開通。郡境の難所を解消。 利用区域森林面積4,923ヘクタール。G	広域基幹林道五秋線が竣工。(昭和48年から9年間、延長2キロ、 杉ヶ崎墓苑が完成。(313区画、7,500平方メートル) F	森山山頂に希望の鐘が完成。G	役場新庁舎の起工式を実施。 弓道場が竣工。	五城目保健所が竣工。(上樋口字向川原3-1) F	第7代収入役に千田金之助氏を選任。 町長選挙執行。第8代町長に加賀谷力司氏当選。	町PTA研究集会(保育園幼稚園部会、小学校部会、中学校部会)を開催。

五城目町への思い

五城目第一中学校 1年

五城目町のいい所は自然が豊かなことと、みんな明るく笑顔であいさつしてくれる所です。あいさつをすると、相手もあいさつしてくれるのでいい気持ちになります。静かな町ですが、お祭りや行事のときはすごくにぎやかです。いつまでも、いい町が続くといいなと思います。



J 町役場庁舎を現在地に移転

西磯ノ目の現在地に役場庁舎が新築落成。一般見学者は1万6千人を超える。



I 雀館公園に日本庭園が完成



C 上町通りの流雪溝が完成

上町通りなどに流雪溝を設置し、排雪作業を始める。



B 県道秋田八郎潟線恋地バイパスが開通



A 日本海中部地震が発生

日本海中部地震が発生。災害対策本部を設置。(震度5、被害件数221件、被害総額184,577千円)

1984 | 1983

昭和59年

昭和58年

12月	11月	10月	9月	8月	6月	4月	3月	2月	10月	7月	5月	4月	2月	1月
矢田津世子文学記念碑除幕式を開催。	富津内稜線林道の開通式を実施。(高野、小川口間6.5 ^キ 、総事業費3億9,700万円)	第1回町国民健康保険杯ゲートボール大会が雀館運動公園で開催。(参加42チーム)	町誘致企業、五城目電機が操業開始。 町職員の定年等に関する条例を制定。定年を60歳に。	全国高校総体レスリング競技会が広域五城目体育館で開催。 F 第1回馬場目川イカダ川下り大会が開催。	町誘致企業、北光フエライトが竣工。 E	第18代町議会議長に小熊金之助氏、副議長に佐々木市太郎氏就任。町遭難対策委員会を設置。	町国土利用計画が議決。 町清掃センターが竣工。 D	長期総合発展計画基本構想を策定。 上町通りの流雪溝が完成。排雪作業を始める。 C	県道秋田八郎潟線恋地バイパスが開通。 B	中山遺跡発掘調査を実施。「朱塗りの弓」など全国的にも貴重な遺物を発見。	日本海中部地震が発生。災害対策本部を設置。(震度5、被害総額7,981万4千円、重傷2人) A	地域住宅計画(HOPE計画)の策定町に指定。	第8代助役に伊藤卓治氏を選任。	失業対策事業を廃止。



F インターハイレスリング大会を開催

全国高校総体レスリング競技会が広域五城目体育館で開催。写真は開会式。



E 町森林資料館「五城目城」が開館



D 町清掃センターが竣工

現在は、八郎湖周辺クリーンセンター(男鹿市)が完成し、ストックヤードを設置している。



市発祥の記念碑を町村農村公園に建立



躍進町合併30周年記念式典を開催

町民憲章、町の花・鳥・木を制定した。



リバーサイド磯ノ目が開館

共同福祉施設「リバーサイド磯ノ目」が国道285号磯ノ目大橋近くに開館。現在は、湖東3町商工会が使用。

1986

昭和61年

1985

昭和60年

12月	11月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	12月	10月	8月	5月	3月	2月
馬川小学校跡地に記念碑を建立。	千代田区神田旭町の佐竹稲荷神社で秋田杉の植栽と記念碑を建立。 町行政教育大綱がまとまる。	木造住宅産業と中央線シンボルロード沿道整備の推進部会を設置。 長寿社会構築対策懇談会を設置。	馬城橋の架け替え工事が始まる。	五城目木材流通センターが杉ヶ崎に完成。	加賀谷町長が千代田区役所で加藤千代田区長と会談。姉妹都市提携を前提とした交流が始まる。	五城目橋歩道架設工事を開始。 第19代町議会議長に小熊金之助氏、副議長に佐々木市太郎氏就任。 市発祥の記念碑を町村農村公園に建立。	町議会議員の定数を24人から22人に変更。 水道料金を改正。(4月1日施行)	旧五城目小学校、矢場崎グラウンド跡地に記念碑を建立。	躍進町合併30周年記念式典を開催。町民憲章、町の花、鳥、木を制定。 杉沢小学校創立100周年記念式典を開催。	共同福祉施設「リバーサイド磯ノ目」が開館。 国道285号線五城目バイパスが全面開通、供用開始。	町議会議に広報委員会が発足。議会広報「議会だより」の創刊号を編集発行。	第8代収入役に佐藤祐治氏を選任。	旧役場庁舎を解体。 町長選挙執行。第9代町長に加賀谷力司氏当選。

五城目町への思い

五城目第一中学校 1年

だまこやキイチゴを全国的にPRしてみたり、五城目町を一周するツアーやキイチゴ畑を味見してまわるイベントを行ってみるのはどうでしょうか。豊かな自然や古い歴史を活かして観光地化し、朝市だけでなく、馬場目周辺などの景観の素晴らしさも知ってもらいたいです。



HOPE計画による公営住宅が完成

地域住宅計画（HOPE計画）の策定町の指定を受け、矢場崎に木造の公営住宅が完成。



五城目木材流通センターが杉ヶ崎に完成



C クリーンセンターが完成

町クリーンセンター（し尿処理施設）が完成。
4月1日から本格操業。



B 映画「イタズ」が完成

町民も多数出演した、映画「イタズ・熊」が完成。
試写会を弓道場で行う。



A 恋地山荘が宿泊施設に

地域休養センター恋地山荘が宿泊施設に。

1988

昭和63年

1987

昭和62年

11月	9月	6月	4月	3月	10月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月
河川花だん「磯ノ目フラワーライン」が内閣総理大臣賞を受賞。 E	第111回秋田県種苗交換会が本町で開催。（入場者数52万8千人） D	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。	富津内北口に千代田区神田旭町会と本町町内会長の姉妹都市提携記念碑を建立。



F 第10代町長に佐藤邦夫氏

町長選挙執行。第10代町長に佐藤邦夫氏が初当選。
2月27日役場へ初登庁。



E 磯ノ目フラワーラインが日本一

昭和63年10月25日、第25回全国花いっぱいコンクールの中央審査で、本町の「磯ノ目フラワーライン」が職場・地域の部で内閣総理大臣賞を受賞。



D 第111回秋田県種苗交換会が開催



総合生きがいセンターが完成



湯ノ又橋が完成

全国でも珍しい「秋田杉の集成材を使用した「湯ノ又橋」が完成。



千代田区と姉妹都市提携調印式

1990

平成2年

1989

平成元年

11月	10月	9月	8月	7月	6月	4月	3月	11月	10月	9月	8月	6月	4月	2月
躍進町35周年記念式典を開催。	国勢調査実施。(人口1万4,161人、世帯数3,885世帯) 五城目幼稚園創立40周年記念式典を開催。	町過疎地域活性化計画を策定。(前期5年分) 悠紀斎田で「抜穂の儀」が行われる。(大田主・伊藤容一郎さん、石崎) I	五城目天翔太鼓が初舞台。(子どもの祭典、馬城橋特設会場) 中山遺跡の発掘調査を実施。(10月9日)日本最古と思われる「甕戸」などが出土。	第1回森鈴旗争奪秋田追分全国大会を開催。 H	町誘致企業、大久工業(株)五城目工場が操業開始。	過疎地域活性化特別措置法の過疎地域に指定。 第22代町議会議長に小玉哲郎氏、副議長に齊藤明氏就任。	町役場開庁方式による4週6休を実施。 水道料金の自動振替を実施。	ふるさと五城目会設立総会を千代田区九段会館で開催。 新しい斎場が完成。	千代田区と本町との姉妹都市提携調印式が千代田区議場で開催。 G	町誘致企業、エドウィン秋田ホーセ大川工場が操業開始。 第9代収入役に加藤千雄氏を選任。	木村茂千代田区長が町を公式訪問。 町誘致企業、秋田部品五城目工場が操業開始。	町公共下水道計画第1期分が国から認可。	役場開庁方式による4週6休を試行。 第10代助役に菊地耕二氏を選任。	町長選挙執行。第10代町長に佐藤邦夫氏当選。 F

五城目町への思い

五城目第一中学校 1年

町では伝統工芸の職人が姿を消し、大切な技術が失われようとしています。町の秋田杉を使った家具でその素晴らしさを伝えようと活動している団体があるそうです。豊富な木材こそが他の市町村にはない強みだと思います。五城目が再び木材で有名な町になってほしいです。



悠紀斎田で「抜穂の儀」

悠紀斎田で「抜穂の儀」が行われる。(大田主・伊藤容一郎さん、石崎)



第1回秋田追分全国大会を開催

初代の優勝者は伊藤正蔵さん(十文字町)。



台風19号で大きな被害

早朝、秋田県沖を通過した台風19号は秋田地方気象台観測史上最高の最大瞬間風速51.4メートルを記録。町消防本部の風速計も46メートルを記録した。



町立養護老人ホーム森山荘が現在地（上樋口字樽沢186）に完成



馬場目ふれあいセンターが開館

写真は平成27年撮影

1992

平成4年

1991

平成3年

9月	6月	5月	4月	3月	1月	12月	11月	10月	9月	7月	5月	4月
町新総合発展基本構想を策定。 学校週5日制がスタート。第2土曜日が休日に。	市神祭が開催。上町通りで30年ぶりの朝市。 F	屋内ゲートボール場「すば〜く五城目」が完成。	杉沢小中学校が新校舎で新学期をスタート。 E 第23代町議会議長に佐藤成孝氏、副議長に館岡幸雄氏就任。	中山遺跡の出土品30点が県有形指定文化財に。 町議会議員選挙執行。	町役場で第2、4土曜日を休日とする、土曜閉庁方式の4週6休を実施。 コンピューターによる住民票の発行をスタート。	森山地区公民館が完成。 D	中津又コミュニティセンターが完成。	町内公共施設の使用料などに3%の消費税を課税。	台風第19号で大きな被害。（被害総額約9億円） C	第3子以降の保育料を無料化。	養護老人ホーム森山荘の竣工式を実施。 B	国道285号山内バイパス工事着工。 馬場目地区文化交流センター（ふれあいセンター）と馬場目保育園の竣工式を実施。 A



30年ぶりに上町通りで朝市

市神祭を上町通りで開催。



杉沢小中学校が完成



森山地区公民館が完成

写真は平成27年撮影



東磯ノ目で朝市を開催

朝市通りの公共下水道工事のため、朝市が東磯ノ目に一時移転し、開催。



馬場目蛇喰に盆城庵と北ノ又自然館がオープン

写真左が北のノ又自然館(現 農家レストラン 清流の森)、写真右が盆城庵



1994

平成6年

1993

平成5年

12月	10月	6月	5月	4月	3月	1月	10月	9月	8月	7月	4月	3月	2月	1月	
町過疎地域活性化計画の後期計画を策定。	第1回朝市500年記念マラソン大会を開催。	みちのく溪流釣り大会in馬場目川を開催。	大川、磯ノ目地区などの一部で公共下水道の供用開始。 社会福祉法人五城目やまゆり会が設立。	富津内地区公民館の竣工式を実施。 K	第24代町議会議長に佐藤成孝氏、副議長に館岡幸雄氏就任。 役場機構改革を実施。部制を廃止し、課制の新しい組織機構でスタート。 J	米不足の千代田区に「あったか米」を贈る。	電話予約での住民票の写しの証明交付を開始。 町役場で完全週休2日制を実施。	稲作が戦後最大の冷害。(被害総額約6億5千万円)	朝市が公共下水道工事のため東磯ノ目に一時移転。 I	町老人クラブ連合会創立30周年記念で老人福祉大会が開催。	盆城庵、北ノ又自然館がオープン。 G H	老人訪問看護ステーションがスタート。	第11代助役に菊地耕二氏、第10代収入役に伊藤太幸氏を選任。 西野第1農道が完成。	町長選挙執行。第11代町長に佐藤邦夫氏当選。	杉沢小中学校校舎と体育館、杉沢保育園が完成し竣工式を実施。

五城目町への思い

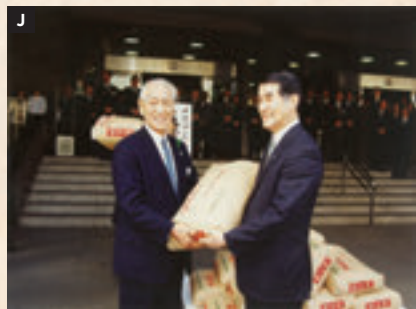
五城目第一中学校 1年

少子高齢化の原因は働く場所がないからだと思います。職場を求めて他のところへいってしまうのだと思います。働く場所が増えたらいいなと思います。私は五城目町に残り、町に役立つような仕事につき、町の問題を少しでも解決したいです。



富津内公民館が完成

写真は平成27年撮影



千代田区に「あったか米」を贈る

前年の冷害により、全国的に米不足のなか、千代田区に町から、「あったか米」を贈る。



C 朝市500年祭が始まる

平成7年5月20日、1495年、馬場目町村に市を開いてから500年の節目の年、「春の山菜まつり」から「朝市500年祭」をスタート。



B 五城館がオープン



A 磯ノ目地区土地区画整理事業が完成

1996

平成8年

1995

平成7年

12月	11月	10月	6月	5月	4月	3月	2月	11月	10月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	1月							
渡邊彦兵衛商店が「登録文化財」に登録。	富津内小学校120周年記念式典を開催。	大川小学校120周年記念式典を開催。	県道秋田八郎潟線保呂瀬、杉沢間が完成。 E	千代田区神田旭町会と町町内会長会との姉妹提携10周年記念式典を開催。	上町商店会と下町商店会が統合し五城目商店会を結成。近畿五城目会が発足。	行政改革大綱、定住促進制度がスタート。	第25代町議会議長に伊藤浩司氏、副議長に猿田和男氏就任。	町議会議員選挙執行。	行政改革大綱をまとめる。 D	朝市500年祭冬まつりを開催。朝市500年祭を締めくくる。	町合併40周年記念式典を開催。	朝市500年祭秋まつり、朝市サミットを開催。	国勢調査実施。(人口13,371人、世帯数3,867世帯)	朝市500年祭夏まつり、ぎゃとっこまつり'95を開催。	朝市500年祭夏まつり、ぎゃとっこまつり'95を開催。	第3回全国やまゆりサミットin五城目'95を開催。	一般廃棄物埋立処分場建設予定地が免品沢に決定。 C	「環境と文化のむら」がオープン。	総合交流センター「五城館」がオープン。矢田津世子文学記念室を公開。 B	やまゆり会特別養護老人ホーム「広青苑」、ケアハウス「いこいの里」がオープン。	朝市500年祭春まつりを開催。	日本海沿岸東北自動車道の昭和、琴丘間中心杭杭打式が実施。五城目都市計画事業磯ノ目地区土地区画整理事業が完成。 A	農村総合整備モデル事業の竣工式を実施。(総事業費22億2,700万円)



E 県道秋田八郎潟線保呂瀬、杉沢間が完成

薬師乃橋を地域の皆さんで渡り初めをする。



D 冬の朝市まつりで500年祭を締めくくる

冬の朝市あったか鍋まつりを開催。朝市通りで大綱引きを行い、朝市500年を締めくくる。

五城目町への思い

五城目第一中学校 1年

子育てをしている若い人たちが町を訪れてくればいいと思います。愛知県の「刈谷ハイウェイオアシス」のように、町の自然を生かして子どもたちが安心して遊べる空間があればいいです。五城目のよさを知ってもらって、住んでみたいと思ってもらえるような町になったらいいです。





H JAあきた湖東農協が発足



G 国道285号山内バイパスが供用開始



F 昭和男鹿半島インターチェンジが開通

1998

平成10年

1997

平成9年

12月	9月	6月	4月	3月	12月	11月	10月	8月	7月	4月	3月	2月	1月	
平成19年秋田国体に向け国体レスリング大会準備委員会が設立。	町国土利用計画を改訂。	個人情報保護及び情報公開制度がスタート。	日本海沿岸東北自動車道昭和、琴丘間の建設に着工。 伝統工芸技能後継者育成事業をスタート。	五城目町、井川町、飯田川町、昭和町の4JAが合併し「あきた湖東農業協同組合」が発足。 秋田中央保健所が業務開始。秋田保健所五城目支所は業務終了。 第27代町議会議長に石井孫一氏、副議長に猿田和男氏就任。 一般廃棄物埋立処分場が完成。	馬場目小学校校舎と体育館の改築に着工。 国道7号線と同285号線を結ぶふるさと農道が完成。(大川、上樋口間)	国道285号線山内バイパスが供用開始。	秋田朝日放送の電波を薬師山から発信開始。 秋田自動車道昭和男鹿半島インターチェンジが開通。	杉沢小学校創立110周年、杉沢中学校創立50周年記念式典を開催。 五城目第一中学校創立50周年記念式典を開催。	第12代助役に畑澤達雄氏、第11代収入役に小林博實氏を選任。	行政手続条例を施行。	湖東総合病院訪問看護ステーションが開設。 ターミナルパーク磯ノ目がオープン。	町観光協会30周年記念式典が開催。 町児童育成計画「エンゼルプラン」を策定。	町長選挙執行。第12代町長に佐藤邦夫氏当選。 第26代町議会議長に石井孫一氏就任。	湯ノ又簡易水道が完成。

五城目町への思い

五城目第一中学校 1年

町が発展していくためには、朝市やネコバリ岩など今あるものを大切にしていかなければならないと思います。五城目の魅力である朝市が続くように出店する人が増えたらいいと思います。ネコバリ岩を簡単に見られるバスツアーがあったら、たくさんの方が来てくれると思います。



J 伝統工芸技能後継者育成事業をスタート



I 一般廃棄物埋立処分場を免品沢に完成



千代田区との姉妹都市提携10周年

10月25日、千代田区と本町の関係者が出席し、千代田区五城目町姉妹都市提携10周年記念式典を開催し、ますますの発展を誓い合った。



秋田追分全国大会10周年

7月11日、秋田追分全国大会を開催して10周年となり、鳥井森鈴の生家近く、岩野入口に記念の標柱を建て、除幕式を行った。



上山内地区農業集落排水施設を供用開始

1農村部の下水道として、平成7年に事業が採択になり、同11年5月1日に供用を開始。同25年3月に公共下水道に接続し、役目を引き継いだ。

2000

平成12年

1999

平成11年

10月	9月	8月	7月	6月	4月	3月	2月	12月	10月	8月	5月	4月	3月	
躍進町45周年記念式典を開催。	国勢調査実施。(人口12,372人、世帯数3,880世帯)	町過疎地域自立促進計画を策定。	福祉医療制度を改正。小学校就学前までの医療費が無料に。	第13代助役に石井一夫氏を選任。 児童手当の支給を小学校就学前まで拡大。	第28代町議会議員長に工藤卓美氏、副議長に草皆隆悦氏就任。 過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎地域に指定。	介護保険制度がスタート。 町議会議員選挙執行。	馬川交流センターが完成。 D	町議会議員の定数を22人から20人に変更。 馬場目小学校新校舎、体育館の竣工式を開催。 C	役場町民談話室で町議会本会議の放送を開始。 千代田区との姉妹都市提携10周年記念式典を開催。 B	谷地中の中谷地遺跡を公開。	雀館運動公園相撲場が新築。全県相撲大会が開催。 パンコンを使った「コミュニティスクール五城目」がスタート。	上山内地区農業集落排水施設が供用開始。 A	町第1号の救急救命士が誕生。 五城目幼稚園で4歳児からの2年保育を実施。 杉沢小中学校で特認校制度がスタート。 東北森林管理局が発足。五城目営林署が米代西部森林管理署五城目事務所に。 チャイルドシートの購入補助を開始。	地域振興券を交付。 国道285号線落合、北村間の改良整備に着手。 新おせど会館が完成。



秋田中央広域農道が開通

10月12日、八郎潟町と河辺町を結ぶ秋田中央広域農道が開通し、テープカットを行った。現在は町道五城目外環状線となり、多くの自動車が行き交う。



馬川交流センターが完成

3月17日、老朽化の著しい馬川地区公民館に替わり、新山村振興特別対策事業で「町高齢者等活動・生活支援促進機会施設馬川交流センター」が完成した。



馬場目小新校舎、体育館の竣工式を開催

1月25日、馬場目小学校新校舎、体育館が完成し、同月28日に竣工式を開催。地元産の木材をふんだんに使った木造2階建て、延べ床面積約2,600平方メートル。



H 悠紀の国五城目がオープン

8月1日、町農林水産物直売・食材供給施設「悠紀の国五城目」がオープン。野菜や山菜などの直売所や地場産食材を提供する食堂が営業を開始。



G 猿田沢・大ナコ地区で地すべり災害

7月16日未明からの大雨で、富津内下山内猿田沢、同富田大ナコ地区内周辺の地層に亀裂が生じ、周辺5世帯14人に避難指示を発令。



F ケアセンター五城目をオープン

4月1日、旧秋田保健所五城目支所を改修した「町保健介護支援センター（愛称・ケアセンター五城目）」の業務を開始しました。

2002

平成14年

2001

平成13年

12月	11月	10月	9月	8月	4月	2月	11月	8月	7月	6月	4月	2月
猿田沢・大ナコ地区地すべり災害の避難指示を一時解除。 町わらしべ体験塾がスタート。 ダイオキシシン類対策特別措置法により、秋田市への可燃ごみの搬入が開始。	道の駅五城目がオープン。（県内22番目） J	県立五城目高等学校創立60周年記念式典が開催。「五高讃歌」が制作。	日本海沿岸東北自動車道（秋田自動車道）昭和琴丘間（20・7キロ）が開通。野田地区に五城目八郎湯IC（インターチェンジ）が完成。 I	住民基本台帳ネットワークシステムの第1次サービスを開始。	学校完全週5日制がスタート。 学童保育「すずむしクラブ」を開始。	「五城目町スポーツ少年団」の設立総会が開催。（加盟登録・14団体） 町新世紀総合発展計画がスタート。 社会福祉協議会事務所がケアセンター五城目に移転。 学校完全週5日制がスタート。	千代田区内神田旭町会と町町内会長の姉妹提携15周年記念式典を開催。 五城目保育園創立30周年記念式典が開催。	悠紀の国五城目（農林水産物直売・食材供給施設）がオープン。 H 第12代収入役に小林博實氏を選任。	猿田沢・大ナコ地区地すべり災害が発生。対策本部を設置し、周辺の5世帯、14人に避難指示。 G	ジャスコ五城目ショッピングセンターがオープン。	ケアセンター五城目（町保健介護支援センター）がオープン。 F	町長選挙執行。第13代町長に佐藤邦夫氏が無投票当選。

五城目町への思い

五城目第一中学校 2年

私たちが次の世代を背負います。未来の町を変えてゆくのも私たちです。魅力的な行事で若い人たちを集めたり、たくさんの人に町に住んでもらえたりするような取り組みが必要だと思います。千代田区との交流は、都会と田舎の現状を知り気づくことのよい機会になっていると思います。



J 道の駅五城目がオープン

11月8日、国道285号沿いに、県内22番目の道の駅「道の駅五城目」がオープン。駐車場、水洗トイレ、公衆電話、道路交通情報装置などが設置。



I 秋田自動車道五城目八郎湯ICが完成

新たな町の玄関が完成し、秋田市、仙台、首都圏、そして全国各地へと、人と物と夢を乗せて自動車がハイウェイを往来する時代がやってきた。



五城目・八郎潟・井川合併協議会設立

3町それぞれの町議会で合併協議会設置案が可決され、10月31日、新町誕生を目指し、「五城目町・八郎潟町・井川町（法定）合併協議会」が設立。



第54回秋田県植樹祭が開催

5月24日、第54回秋田県植樹祭が開催し、森山森林公園でレンゲツツジやヤマモミジなど757本を植樹。その後、広域五城目体育館で式典を行う。



馬場目スポーツ少年団が全国大会優勝

3月30日、馬場目小の4年生以上13人の馬場目スポーツ少年団が2年連続で出場した全国ミニバスケットボール大会でブロック優勝を果たす。

2004

平成16年

2003

平成15年

12月	7月	6月	4月	3月	2月	12月	10月	8月	5月	4月	3月
合併協議会から井川町が離脱。 E	戸籍事務をコンピュータ化。 リバーサイド磯ノ目を閉館。	第14代助役に石井一夫氏を選任。 D	第6回合併協議会で新町の名称を「湖東町（ことうちょう）」に決定。 菊地酒造店旧酒造工場と菊地家住宅が国の登録有形文化財に登録。 D	五城目第一中学校で2学期制を導入。 第30代町議会議長に千田峯夫氏、副議長に荒川正己氏就任。	五城目町男女共同参画計画を策定。 町議会議員選挙執行。（史上初の無投票） 介護老人保健施設「湖東老健」が完成。事業がスタート。	もりやまこども園（五城目幼稚園・保育園一体型施設）の竣工式を実施。 C	秋田信用金庫と五城目信用金庫が合併。 五城目町・八郎潟町・井川町合併協議会（法定）が設立。	八郎湖周辺六市町村廃棄物対策協議会を設立。 住民基本台帳ネットワークシステムの第2次サービス、住民基本台帳カードの交付を開始。	第54回県植樹祭を開催。 A	行政改革大綱を策定、実施。（平成17年度） 馬場目地区統合簡易水道が供用開始。（給水世帯 295世帯） 野田・浦横町地区簡易水道が供用開始。（給水世帯 99世帯） 五城目町、八郎潟町、井川町の3町で湖東三町合併懇談会を設立。	富津内小学校、杉沢中学校が閉校。富津内保育園が開園。杉沢保育園が休園。 五城目小学校と富津内小学校、五城目第一中学校と杉沢中学校が統合。



合併協議会から井川町が離脱

12月20日に開催された合併協議会正副会長会議で「12月31日をもって井川町が合併協議会から離脱」と表明。24日、3町の議会で合併協議会規約を変更。



菊地家住宅などが登録有形文化財に

6月9日、美酒「秋田山」を造り出した菊地酒造店旧酒造工場6棟と良質な木材などを使った菊地家の住宅3棟が、国の登録有形文化財に登録。



もりやまこども園が完成

幼稚園・保育園一体型施設「もりやまこども園」が完成し、2月26日に竣工式を行う。全面床暖房の木造平屋建て。屋外には広い園庭も確保。



町合併50周年記念式典を開催

11月3日、広域五城目体育館で、町合併50周年記念式典を開催し、町内外から出席した約400人が合併50周年と町功労者の受賞をお祝いした。



湖東3町商工会が設立

平成16年6月24日に合併協定書の調印を行った五城目町、八郎潟町、井川町3町の商工会が、4月1日、湖東3町商工会として設立。五城目事務所を旧リバーサイド磯ノ目に置き、開所式が行われた。

渡邊彦兵衛氏が町長選挙に初当選。第14代町長に

渡邊彦兵衛氏が町長選挙に初当選。第14代町長に就任。昭和30年の合併から50周年を迎えたこの年、単独での行政運営を進めていくため、今後10年間の自立計画を策定し、新たな「まちづくり」がスタートしました。

12月	11月	10月	8月	6月	5月	4月	3月	2月
町が出資するまちづくり会社・株式会社あつたか五城目が設立。	町合併50周年記念式典を開催。	国勢調査実施。(人口11,678人、世帯数3,891世帯)	町と五城目・内川郵便局が「道路破損等の情報提供に関する覚書」を締結。	五城目町史デジタルデータを町ホームページで公開。	第15代助役に児玉泰氏が就任。	町内各小学校で2学期制が導入。 社会福祉法人五城目やまゆり会が養護老人ホーム森山荘の管理運営をスタート。	八郎潟周辺清掃事務組合が設置。 五城目町、八郎潟町、井川町の商工会が合併し、湖東3町商工会が発足。	町長選挙が行われ、渡邊彦兵衛氏が初当選。第14代町長に就任。 合併協議会を廃止。

2005

平成17年

町長選挙が行われ
渡邊彦兵衛氏が初当選

2月20日、任期満了に伴う町長選挙が行われ、渡邊彦兵衛氏が初当選を果たし、第14代町長に。2月25日、大勢の町民と役員職員の大きな拍手に迎えられて初登庁。



やまゆり会の運営で森山荘が新たなスタート

4月1日、養護老人ホーム「森山荘」は、社会福祉法人五城目やまゆり会が管理運営することになり、同施設で、開所式が行われた。



豪雪を協働で乗り切る

1月5日の積雪量は137センチ。アメダス観測史上最大となり、公共交通機関にも大きな混乱を招いた。町内会や消防団、高校生のボランティアも協働で除雪作業を行う。

2006

平成18年

11月	10月	8月	4月	3月	1月
旧富津内小学校の解体工事を開始。	五城目第一中学校改築の基本設計業務について町内の一級建築士4業者による共同企業体と委託契約を締結。	指定管理者いそうら直売会が悠紀の国五城目の営業を開始。	旧杉沢小学校校舎を利用した教育福祉活動センターが開館。	指定管理者株式会社あつたか五城目が五城館の営業を開始。	昭和45年に設立された町開発公社が解散。
				杉沢小学校閉校式が開かれる。(3月31日閉校)	アメダス観測史上最大の大雪。積雪量137センチを記録し公共交通機関が混乱。豪雪対策本部を設置。
				町第3次行政改革推進プログラム(集中改革プラン)を策定。	



121年の歴史に幕、杉沢小学校が閉校

明治18年馬場目小学校の分教室として開校し、これまで1,930人の卒業生を送り出した杉沢小学校が、3月31日で閉校し、121年の歴に幕を閉じた。

豪雪、町を襲う 137センチの積雪を記録

平年並みという長期予報のなか、12月下旬から降り続いた雪。1月4日には76センチもの雪が降り(町消防署調べ)、町一面を白一色に埋め尽くす記録的な大雪になりました。

また、1月5日の積雪量は137センチとアメダス観測史上最大(気象庁調べ/昭和54年統計開始)となり、町道は腰の高さまで雪に埋もれ、公共交通機関も運行不能になるなど大きな混乱を招きました。



天皇・皇后両陛下がご来町

秋田わか杉国体開会式ご出席と県内事情ご視察のため秋田県を訪れていた天皇・皇后両陛下が9月30日、三種町から秋田市へ向かう途中、本町へご来町されました。両陛下のご訪問は町の歴史始まって以来初めての事です。

「秋田わか杉国体」
レスリング競技会を開催

国民体育大会「秋田わか杉大会」レスリング競技会と第7回全国障害者スポーツ大会「秋田わか杉大会」バレーボール大会が開催。関係各団体、町民ボランティアの協力で大成功の大会となりました。

これを前に天皇・皇后両陛下が、本町の歴史が始まって以来初のご来町をされました。また、レスリング競技会の初日には、常陸宮殿下・同妃殿下が競技をご観戦のためご来町されるなど記念する年となりました。

12月	11月	10月	9月	8月	6月	4月
首相官邸において、地域再生計画の認定書が授与。	五城目第一中学校の建設工事に着手。	秋田わか杉大会バレーボール競技会（聴覚障害者の部）が開かれる。 武田和栄氏が第2代副町長に就任。	天皇・皇后両陛下ご来町。 常陸宮・同妃両殿下ご来町。	五城目第一中学校が創立60周年記念式典を開催。 秋田わか杉国体・わか杉大会の大会旗・炬火リレーを開催。	清流の会が中心となり、デロ杉流域の環境保全整備事業を実施。 夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操が開催される。	初代副町長に児玉泰氏が就任。 各地区町内会長が指定管理者となり、町内各地区公民館の管理運営を開始。 合地町内会が指定管理者となり、盆城庵の営業を開始。 役場組織機構改革により、課の統廃合を実施。 協働のまちづくり支援制度がスタート。 姉妹都市千代田区の新庁舎へ欒テーブルを贈呈。

2007

平成19年



地域再生計画の認定書が授与

9月20日、町が提案していた地域再生計画「思いやりと活力に満ちたふるさとの地域再生プラン」が内閣府より認定され、首相官邸において福田総理大臣から認定書が授与されました。この認定により、町では国の支援を受けながら「思いやりと活力に満ちたふるさとの創生」を目指し、雇用拡大のための地域雇用創造推進事業を行っていきます。



秋田わか杉国体レスリング競技会（成年の部）を開催

「さわやかな笑顔と夢をこの町で」を合い言葉に10月5日から第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」レスリング競技会（成年の部）が広域五城目体育館で開催。県レスリング選手団は総合優勝に輝いた。





2008

平成20年

北ノ又などで映画「釣りキチ三平」の撮影が行われる

三平の家は北ノ又のかやぶき屋根。撮影初日には「だまこ」で撮影関係者をおもてなし。

12月	10月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月
五城目テレビ中継局(薬師山)から地上デジタル放送電波の発射が開始。	町観光協会とノースアジア大学が「観光に関する連携協定」を結ぶ。	映画「釣りキチ三平」の撮影が、馬場目北ノ又やテロ杉流域で行われる。	ふるさと納税制度初めての「ふるさと愛郷寄附金」をいただく。	町酒米研究会が設立。	約350人のボランティアで「雀館多目的広場」の芝張りを実施。	「チャレンジデー20008」に町が初参加。初勝利。	町キイチゴ研究会が設立。	八郎湖周辺クリーンセンターの試験稼働が始まる。



350人の町民ボランティアが芝張り作業

6月7日・8日の2日間、350人の町民が町民センター隣の駐車場を芝生広場に整備。約4,000平方メートルに43,000枚の芝の苗を張り付けた。



予約式乗合タクシーの実証運行がスタート

9月末で廃止された馬場目線バス路線の代替交通として、10月1日から「予約式乗合タクシー」の実証運行がスタート。9人乗りのジャンボタクシーで馬場目地区と五城目地区を運行。

県出身の漫画家・矢口高雄さん原作の「釣りキチ三平」が映画化されることになり、本町馬場目北ノ又のかやぶき屋根の民家が建ち並ぶ集落や馬場目川上流域がロケ地に選ばれ、撮影が行われました。

「釣りキチ三平」は、麦わら帽子がトレードマークの天才釣りキチ少年・三平三平(みひらさんべい)が様々な魚に挑む様子を通し、大自然と人間の素晴らしさが描かれている名作です。

北ノ又集落や馬場目川上流で映画の撮影



千代田区と姉妹提携20周年記念式典

10月23日、千代田区のホテルで町と千代田区が姉妹提携を始めて20周年を記念する式典と交歓会が開催。出席した両自治体の関係者230人は友好の輪の更なる広がりを誓い合った。



秋田の再生を語るシンポジウム開催

10月18日、広域五城目体育館で、映画「釣りキチ三平」の監督の滝田洋二郎さんと原作者の矢口高雄さんを招き、秋田の活性化を話し合うシンポジウムを開催。

念願の五城目第一中学校 新校舎が完成

町民の長年の願いであった五城目第一中学校新校舎が完成。地場産の木材がふんだんに使われ、木の香りが匂う温もりのある新校舎での学校生活がスタートしました。
4月5日の新校舎見学会では、多くの町民に見守られながらテープカットが行われました。

11月	10月	8月	7月	4月	3月	2月
映画「釣りキチ三平」のロケ地、「三平の家」の来場者が10,000人を突破。内川小学校の閉校式を開催。135年の歴史に幕。	千代田区との姉妹提携が20年を迎え、記念式典・交歓会を開催。	馬場目地区で予約式乗合タクシーが運行開始。	五城目第一中学校屋内運動場建設工事がスタート。	五城目第一中学校新校舎の見学会を開催。	映画「釣りキチ三平」が全国上映開始。	町長選挙が行われ、渡邊彦兵衛氏が再選。第15代町長に就任。 五城目第一中学校新校舎が完成。

2009

平成21年



森山仰ぐ 光と風と緑の学び舎が完成

五城目第一中学校の新校舎は、延べ床面積4849.1平方メートル。鉄筋コンクリート造2階建て、屋根は木材の置屋根となっており、内部の床や腰壁などには地元産の木材を使用。





2010

平成22年

五城目第一中学校改築事業が完了し竣工式
 11月3日、五城目第一中学校改築事業の完了を記念し、竣工式と記念植樹を実施。

12月	11月	10月	8月	7月	6月	4月	3月	2月
馬場目・富津内・内川地区で光ブロードバンドサービスが開始。	町清掃センターの解体工事が完了。	町合併55周年記念式典を開催。	杉沢交流センター「友愛館」がオープン。	湖東病院を守る住民の会がシンポジウムを開催。	エンゼルタクシー券の交付を開始。	湖東総合病院が時間外の救急外来受付を中止。	高樋線バス路線の代替交通・予約式乗合タクシーの実証運行がスタート。	五城目第一中学校改築竣工式

湖東総合病院の医師確保と早期改築に向けて

地域医療の大きな役割を担ってきた湖東総合病院。経営する秋田厚生連から「平成21年着工、23年に開院」と計画が発表されていきました。しかし、その後秋田厚生連の経営状況が悪化したことで、同病院の移転改築計画は延期されていきました。また平成21年に医師の退職が相次ぎ一部病棟を休止し、22年4月には救急外来も受け付けを中止しました。

周辺市町村の住民は「湖東病院を守る会」を設立し、湖東病院を守る活動を始めて行きました。



湖東病院を守ろうと650人が参加
 3月25日、「湖東病院を守る住民集会」が開催。周辺市町村の住民による「湖東病院を守る住民の会」を設立し、湖東総合病院を守り発展させるため力を合わせていくことを確認した。



農家レストラン「清流の森」がオープン
 4月24日、映画「釣りキチ三平」のロケ地となった馬場目地区に整備を進めていた農家レストラン「清流の森」がオープン。コゴミや山ワサビなど地元の山菜をふんだんに使った「清流定食」が人気に。



だまこマンファミリーが出迎え 朝市ふれあい館

5月12日、朝市通りに「五城目朝市ふれあい館」が完成し、竣工式を行う。木造平屋建て631.8平方メートルで、多目的ホール、会議室、調理室、トイレなどを備えている。



だまこ鍋が準グランプリ

11月6日、京都府笠置町で開催された「国文祭全国ご当地鍋フェスタ」で町米消費拡大地域活動推進委員会の「だまこ鍋」が準グランプリを獲得。

東日本大震災で被災した旅行者36人が無事に帰町

3月11日、午後2時46分、東日本大震災が発生。本町の震度は「4」を記録しました。本町への直接的な被害はなかったものの、停電や断水が発生しました。

岩手県大槌町へ旅行していた町老人クラブ員らと一時連絡が取れなくなりましたが、地元の方から避難場所や物資を提供していただき、2日後、無事に帰町できました。

その後、本町も東北地方の一員として、義援金や救援物資などを送り、被災地への支援を行いました。

11月	9月	4月	3月	1月
ふるさと五城目会総会にて、「町ふるさと応援やまゆり大使」に同会会員ら32人を委嘱。	第3代副町長に武田和栄氏が就任。 町米消費拡大地域活動推進委員会のだまこ鍋が、「全国ご当地鍋フェスタ」で準グランプリを獲得。	大川保育園の運営を「社会福祉法人キッズハウスもりやま」に移管。 「五城目朝市ふれあい館」がオープン。	東日本大震災発生。 役場組織機構改革により、課と係を変更・新設。 富津内地区予約式乗合タクシーの本格運行を開始。	町農業委員の定数を20人から18人に削減。

2011

平成23年

津波に襲われたホテルから全員無事に帰町

岩手県大槌町へ旅行していた町老人クラブ員36人は、宿泊先で被災。高台に避難し、津波から逃れ、地元の方から避難場所などの提供を受け、2日後、全員無事帰町。



町内各地で募金やチャリティー活動

震災後、ツアー参加者やボーイスカウト第30団による募金活動のほか、各種チャリティーイベント、そして多くの皆さんのご協力でたくさんの義援金が集まった。





2012

平成24年

皇太子さま、ようこそ五城目町へ

10月30日、秋田県をご訪問されていた皇太子さまが、本町を初訪問。沿道や役場前で多くの町民がお出迎え。

12月	11月	10月	8月	6月	5月	4月	3月
県道秋田八郎潟線館越バイパスが開通。	馬場目小学校閉校式を開催。	皇太子さまご来町。 県立五城目高等学校が創立70周年を迎え、記念式典を開催。	弘前大学人文学部との共同研究で中山遺跡発掘調査を実施。	「馬場目川水系土地改良区」発足を目指し、3土地改良区が合併予備調印。	千代田区に「五城目町東京千代田事務所」を開設。	新しい「五城目町総合発展計画」を策定。 第34代町議会議長に小林正志氏、副議長に荒川達雄氏が就任。	町議会議員選挙が執行。



中山遺跡を発掘調査

8月27日から9月21日までの26日間にわたり、弘前大学人文学部による中山遺跡の発掘調査が行われた。今回の発掘調査では、縄文時代晩期のもっとみられる漆塗りの土器のほか、漆製品や木製品が出土。また、トチの皮やクルミの殻なども大量に発見され、当時の生活を知る上で大きな成果が得られた。



「総合発展計画」を策定

町が持つ様々な魅力を生かしたまちづくりを進めるため、「人とまちが響きあう ころやすらぐ悠紀の郷 五城目」を将来ビジョンに掲げた総合発展計画。

皇太子さま、初のご来町

第15回全国農業担い手サミット in あきたへご出席と秋田県内事情ご視察のため来県されていた皇太子さまが、10月30日、秋田市から能代市へ向かう途中、本町へお立ち寄りになりました。皇太子さまのご来町は町の歴史上初めてのことです。当日は、沿道や役場前に集まった多くの皆さんに、皇太子さまは、にこやかに手を振ってお応えになりました。



ありがとう 馬場目小学校

3月15日に行われた馬場目小学校の卒業式。138年の歴史と伝統、そして感謝の気持ちを胸に、たくさんの笑顔と涙で、最後の卒業生4人を送り出した。



町の観光PRキャラクター
だまこちゃんが誕生

町の観光PRキャラクター「だまこちゃん」が誕生し、5月12日に行われた春の朝市山菜まつりでお披露目。

旧馬場目小・保育園を 地域活性化支援センターに

3月31日に閉校し、4月1日五城目小学校と統合した旧馬場目小学校の校舎と閉園した馬場目保育園園舎を利用し、町地域活性化支援センターとしてリニューアルオープンさせました。

この施設では起業やコミュニティ活動などを実施する事業者を支援しています。

12月	10月	8月	5月	4月	3月	2月	1月	
議会映像配信システムの運用を開始。	地域活性化支援センターがオープン。	「みんなの店あさいち」がオープン。	町の観光PRキャラクター「だまこちゃん」が誕生。	町の都市計画を変更。	五城目小学校と馬場目小学校が統合。	馬場目小学校が閉校。馬場目保育園が閉園。	町長選挙が行われ、渡邊彦兵衛氏が3選を果たす。第16代町長に就任。	町初の地域おこし協力隊員として河原崎彩子さんが着任。

2013

平成25年



「だまこ大名」は赤倉山荘

10月20日、「五城目G級グルメまつり・第1回だまこ鍋合戦」で最も多くの支持を集めた赤倉山荘が「初代・だまこ大名」に。

地域活性化支援センターがオープン

10月28日、平成25年3月末で閉校・閉園した旧馬場目小学校と旧馬場目保育園を地域活性化支援センターとしてリニューアルし、開所式を開催。



国民文化祭を開催

国民文化祭では、全国から集まった15の朝市団体で組織する朝市サミット協議会総会を開催し、朝市の意義を再確認し、より一層発展させていこうと共同宣言が採択された。また、同時に開催した朝市ぎのこまつりは、期間中2万人もの来客があった。

2014

平成26年

11月	10月	9月	5月	4月
<p>大川小学校閉校式典を開催。 五城目第一中学校が地産地消メニュー給食全国コンテストで文部科学大臣賞を受賞。</p>	<p>国文祭「全国朝市サミット2014 in 五城目」を開催。 秋田県市町村未来づくりプログラム・五城目プロジェクトによる在宅支援講演会を開催し湖東厚生病院中鉢院長が講演。</p>	<p>第1回秋田市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！で町チームが町の部第5位入賞。 第1回秋田市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！で町チームが町の部第5位入賞。</p>	<p>湖東厚生病院が開院。 秋田県市町村未来づくりプログラム・五城目プロジェクトによる町内会からの交付金申請受付を開始。</p>	<p>幼保連携型の認定こども園「もりやまこども園」がスタート。 乗合タクシー内川線・森山線が本格運行を開始。全線で小中学生の利用料が無料。 第35代町議会議長に小林正志氏、副議長に荒川達雄氏が就任。</p>



元気な地域づくり応援プロジェクトを進行

県と協働で「秋田県市町村未来づくりプログラム・五城目プロジェクト」を平成25年度からスタート。ほとんどの町内会でワークショップを開催し、「みんなの町内会びしょん」に合わせた活動の支援を開始。



五城目第一中学校の給食が文科大臣賞

第7回地産地消学校給食等メニューコンテストの学校給食・社員食堂部門で五城目第一中学校の給食が最高賞の文部科学大臣賞を受賞。

全町民協力のおかげで 国民文化祭大成功

10月11日と12日、朝市通りなどで国内最大の文化の祭典「第29回国民文化祭・全国朝市サミット2014 in 五城目」を開催しました。

特設ステージでの躍動感あふれるダンスも国文祭に花を添え、当町の事業は町民の皆さんのご協力により、大成功。朝市通りには約2万人のお客さんが訪れ、五城目の秋を満喫しました。



町消防庁舎が下山内に完成

5階建ての訓練棟やドクターヘリ、防災ヘリの臨時離着陸場を備えた近代的な消防庁舎は、防災拠点施設として、町民の安全・安心な生活を守り、防災・防火体制の充実強化を図った。



NHKのど自慢を開催

町制施行60周年を記念し、「NHKのど自慢」を広域五城目体育館で開催。観覧の申し込みは7,000件を超え、当日は町内外1,100人の観覧者とともに当町の朝市や特産、元気を全国のお茶の間に発信した。

躍進五城目町 町制施行60周年

昭和30年3月31日、旧五城目町、馬場目村、富津内村、内川村、大川村が合併し、新「五城目町」として町制を施行して60周年。

人口減少や超高齢化社会という課題に立ち向かい、さらなる飛躍を遂げようと、町民と協働のまちづくりを進め、魅力あふれる地方の創生に向けた新たなまちづくりに取り組んでいます。

11月	10月	5月	4月	3月	2月	1月
町制施行60周年記念式典を開催。 国道285号落合工区が完成。 第4代副町長に武田和栄氏が就任。	広域五城目体育館でNHKのど自慢を開催。 消防庁舎が下山内に完成。	朝市振興の一環として、定期市以外の第1・第3日曜日臨時朝市を開設。	県議会議員一般選挙が告示され、南秋田郡選挙区(定数1)で平山晴彦さんが無投票当選。	大川小が閉校。 五城目小と大川小が統合。 県議会議員一般選挙が告示され、南秋田郡選挙区(定数1)で平山晴彦さんが無投票当選。	秋田県市町村未来づくりプログラム・五城目プロジェクトによる大規模改修をしていた屋内温水プールが完成し、水中運動教室モデル事業を実施。	災害時の復旧に向けて、東北地方整備局秋田河川国道事務所と覚書を締結。

2015

平成27年



屋内温水プールを大規模改修

「秋田県市町村未来づくり協働プログラム」で改修工事を進めていた屋内温水プールが完成。
新しい屋内温水プールは水中歩行用のプールを備え、水泳のほかに、水中運動で健康づくりができるようになった。



ひと

数字で見る 五城目町

1万人余りの人々の暮らしが営まれる、町の統計データを紹介します。

□ 人口

10,025人

□ 男

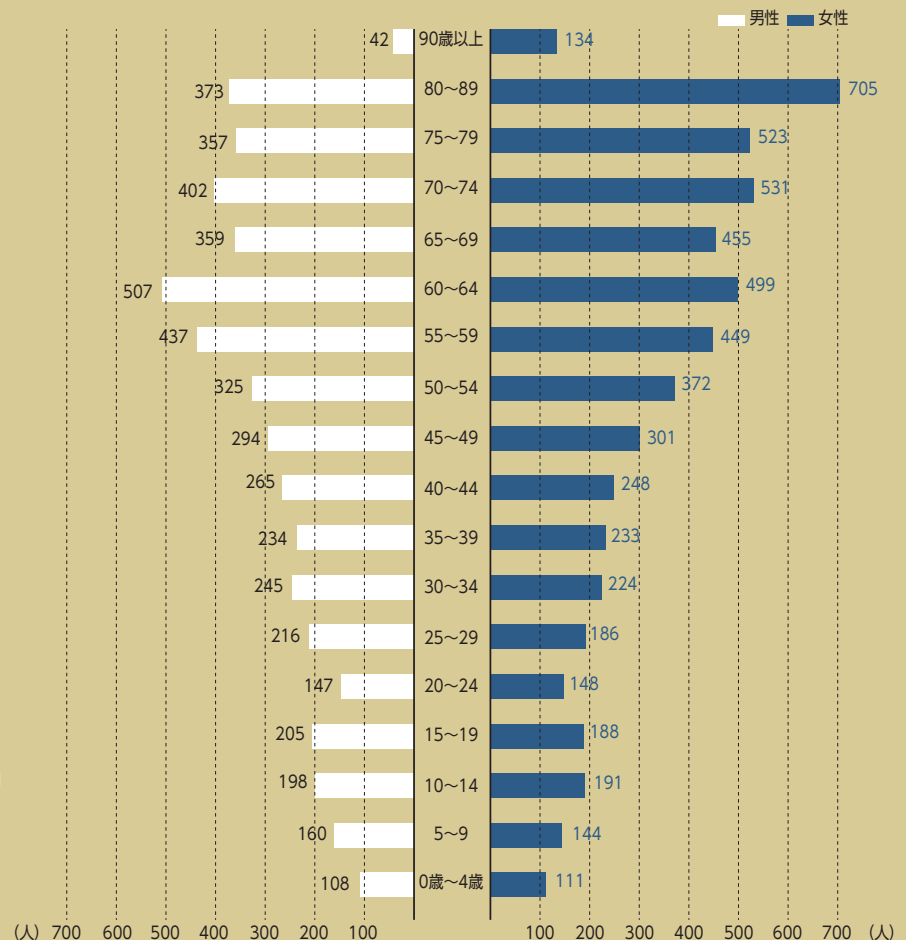
4,665人

□ 女

5,360人

平成27年9月 資料:住民基本台帳

年齢別・男女別人口

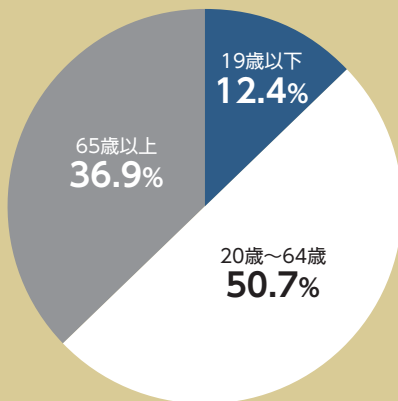


□ 高齢化率

36.9%

各年代の割合

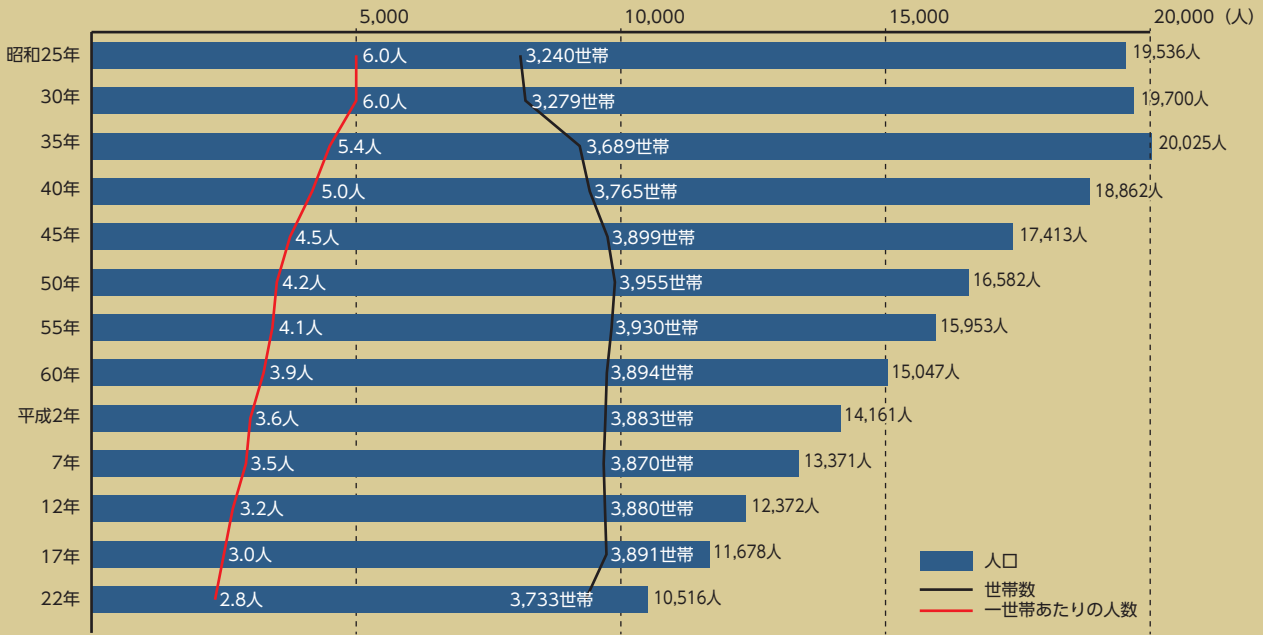
平成22年10月1日 資料:国勢調査



平成22年10月1日 資料:国勢調査

人口と世帯数の推移

各年10月1日 資料:国勢調査



世帯数

4,165 世帯

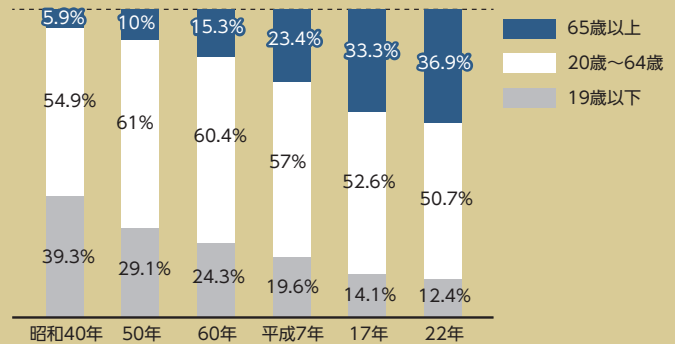
一世帯あたりの平均人数

2.4 人

平成27年9月 資料:住民基本台帳

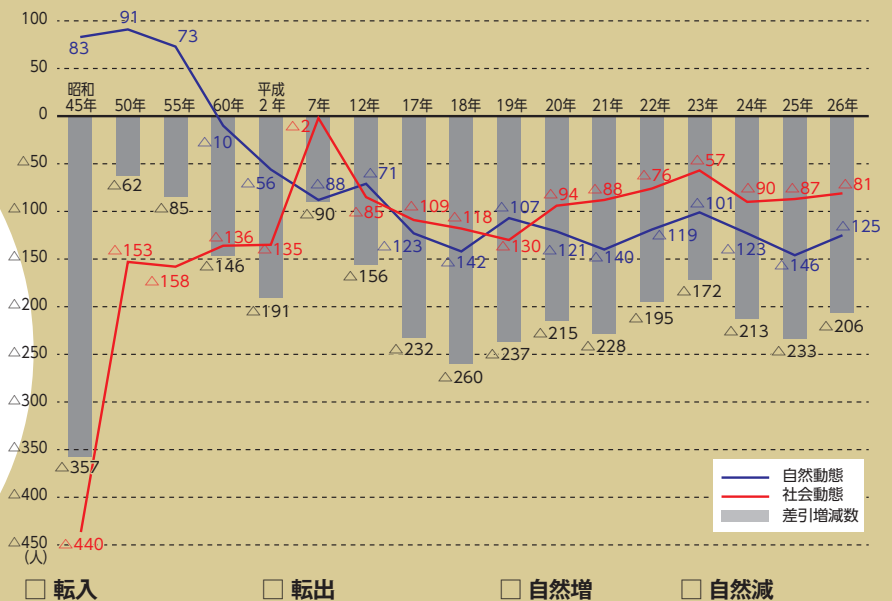
年代別人口の推移

各年10月1日 資料:国勢調査



人口動態の推移

資料:秋田県年齢別人口流動調査



人口・世帯の推移

国勢調査によると、平成22年10月1日時点の人口は10,516人です。平成2年以降の減少は、5年間でおよそ900人前後減少しています。

また、平成22年10月1日時点の世帯数は3,733世帯、一世帯当たり人員は2.82人と3人を下回ることから、今後は親と子の2世代世帯(核家族)から、さらに夫婦のみの世帯や一人暮らし世帯の増加が懸念されます。

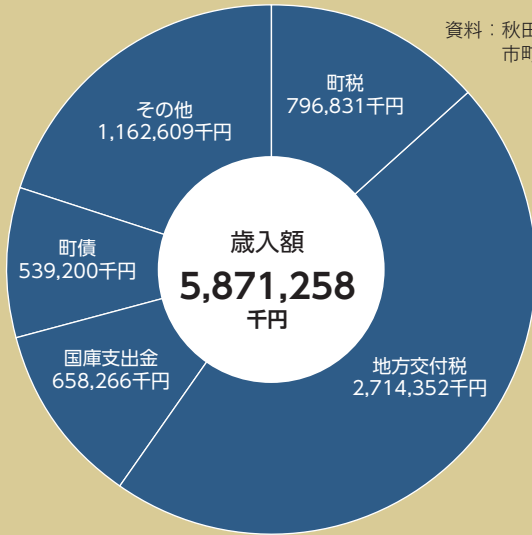
本町の人口動態は、近年、死亡者数や転出者数が、出生者数や転入者数を上回る傾向が続き、人口は年間平均でおよそ180人前後、減少している状況です。

218 人 299 人 36 人 161 人

平成26年の人口動態

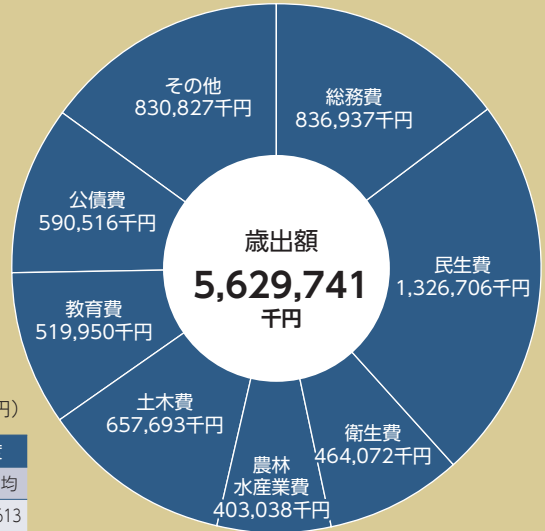
財政

平成25年度 普通会計歳入決算額



資料：秋田県企画振興部市町村課、市町村財政状況

平成25年度 普通会計歳出決算額



主な項目の住民1人当り決算額

(単位:円)

	昭和50年度		昭和60年度		平成7年度		平成17年度		平成25年度	
	五城目町	県平均	五城目町	県平均	五城目町	県平均	五城目町	県平均	五城目町	県平均
歳入合計	131,598	109,521	217,792	241,749	438,737	468,945	463,423	602,809	563,614	535,613
地方税	15,030	21,390	48,557	64,827	70,844	97,596	71,806	104,268	76,471	105,210
地方交付税	35,619	37,754	95,083	77,305	200,035	153,294	210,503	181,836	260,494	194,590
国庫支出金	29,083	23,863	39,369	41,553	65,135	71,754	54,579	92,499	96,795	104,483
地方債	26,818	10,198	8,247	20,950	43,938	67,026	41,685	100,104	51,747	54,211
歳出合計	136,173	107,045	214,849	236,494	428,881	483,889	444,364	599,685	540,405	520,540
総務費	14,920	16,096	29,627	32,228	62,966	66,437	51,703	27,680	70,844	75,953
民生費	12,663	17,016	23,224	34,962	73,597	75,400	95,153	41,687	130,118	145,704
衛生費	2,842	5,661	6,803	16,462	26,696	31,057	39,367	22,243	44,841	40,925
農林水産費	33,242	13,206	35,476	24,521	35,006	43,467	23,305	62,607	38,486	27,849
土木費	10,359	15,554	25,939	35,003	58,592	70,810	37,584	99,219	63,125	62,018
教育費	40,642	20,700	19,928	36,386	55,993	70,193	59,044	109,800	49,769	49,790
公債費	7,465	4,395	40,884	29,641	52,413	45,432	68,713	113,524	56,671	64,587

行財政運営

職員が町民に信頼される行政運営に努めるとともに、コスト意識を持った財政運営によって、次代への活力を築くまちづくりを進めています。

将来にわたって持続可能な行財政運営を図るため、自主財源の確保とともに、限られた財源を効率的に活用するため経費の見直しを行い、行政改革に取り組み、健全な財政運営に努めています。

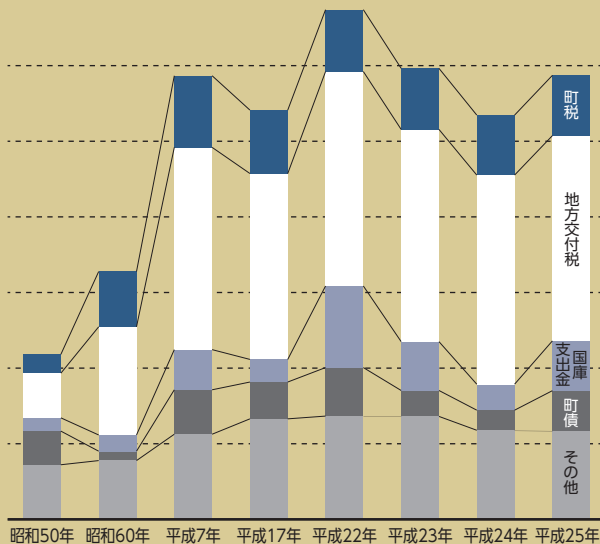
また、職員の資質向上に取り組み、町民の満足度の高い、信頼される行政運営を目指しています。

資料:市町村財政概要
住民基本台帳年報

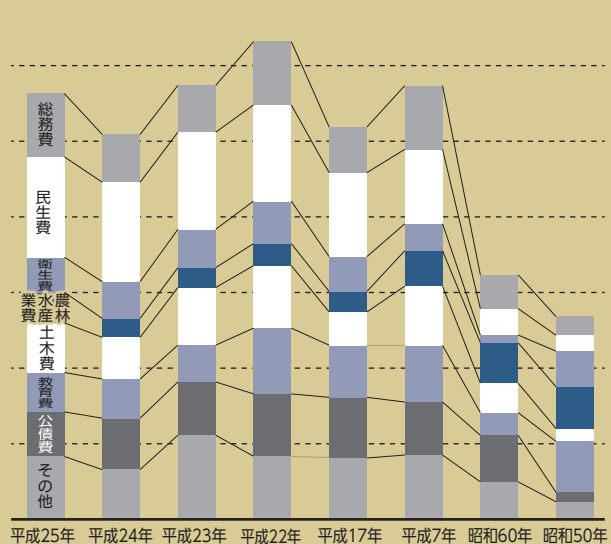
決算額に占める構成比の変化

歳入額

億円



歳出額



資料:決算書

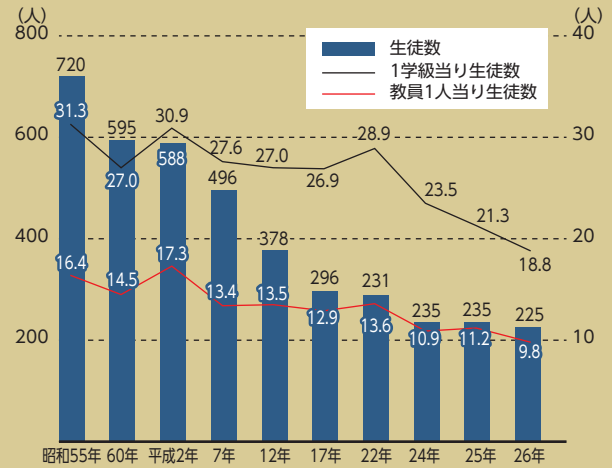
教育

教育環境

町の児童生徒数は年々減少傾向にあり、現在は統廃合によって小学校、中学校 1 校ずつとなっています。

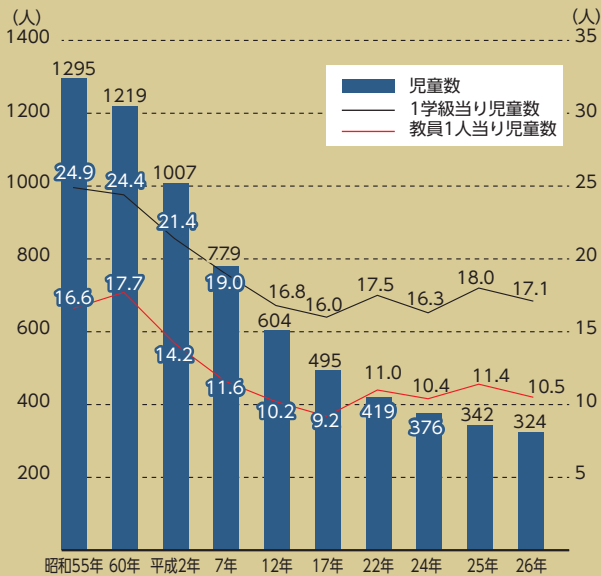
五城目第一中学校生徒数の推移

資料:学校基本調査



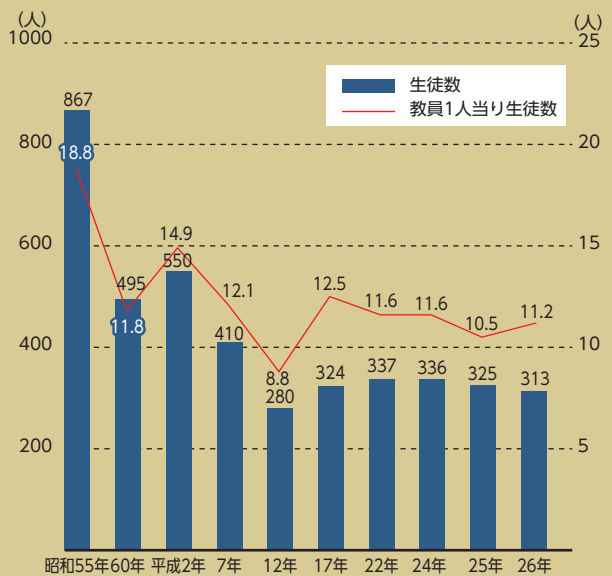
五城目小学校児童数の推移

資料:学校基本調査



県立五城目高等学校生徒数の推移

資料:学校基本調査



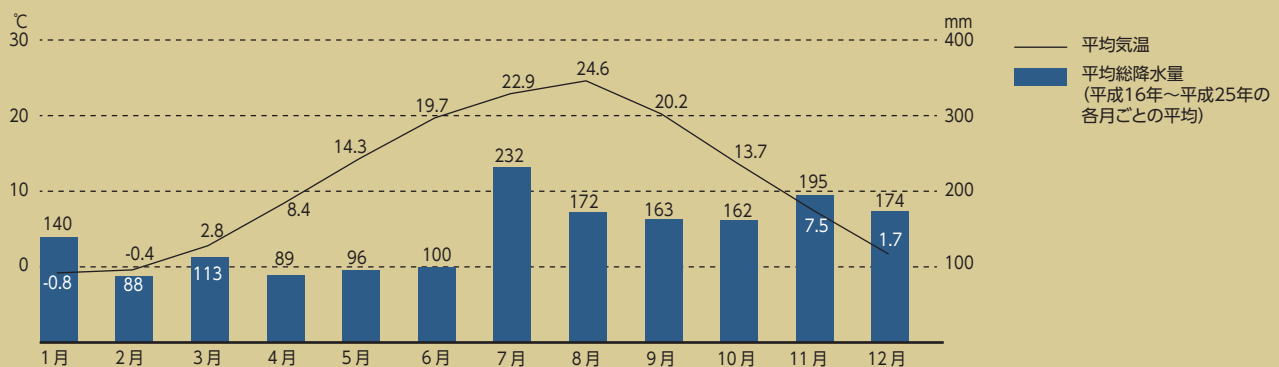
気象

季節を体感できる気候

五城目町の年間平均気温は10.8℃、年間平均降水量は1,553.1mm、最深積雪は48cmとなっています。(資料:平成22年データ 気象庁ホームページ)

年間の平均気温と平均総降水量

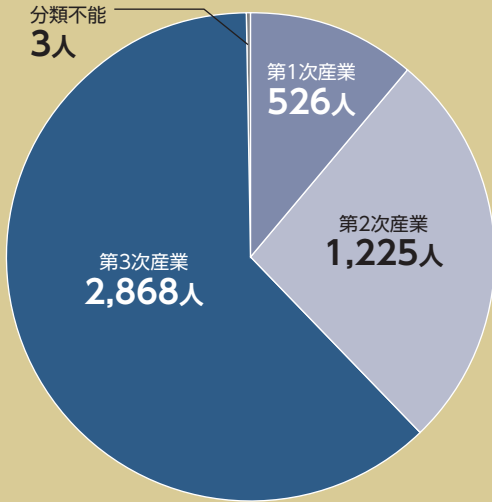
資料:気象庁「気象統計」



産業

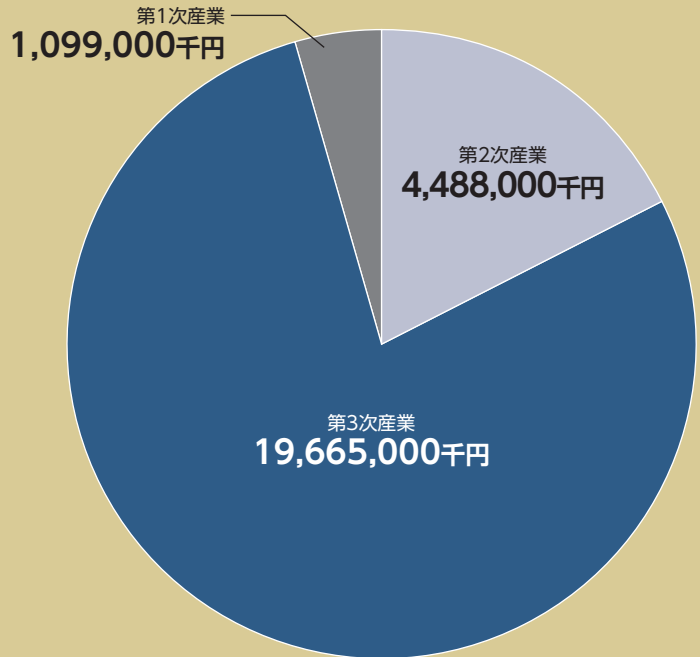
平成22年度 産業別就業者数

資料:国勢調査



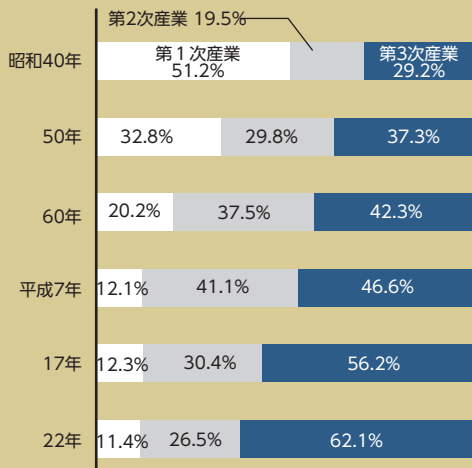
平成23年度 産業別町内総生産

資料:秋田県民経済計算・市町村民経済計算年報



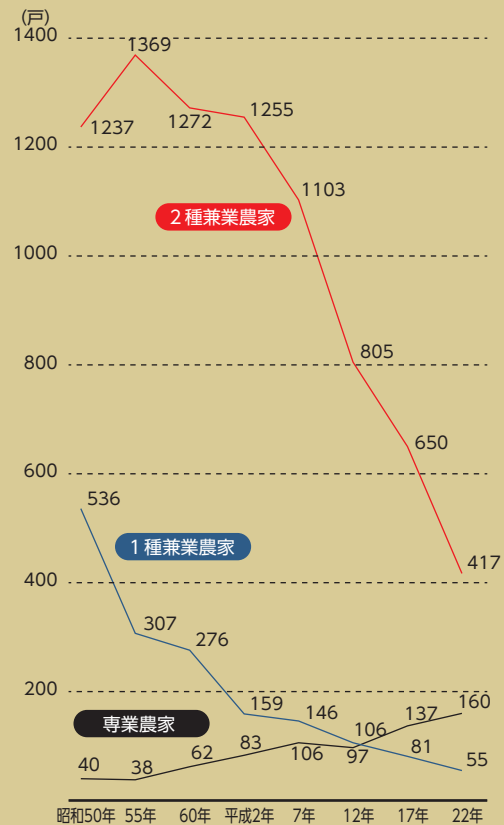
1次産業から2次、3次産業への推移

各年10月1日現在 資料:国勢調査



農家戸数の推移

資料:農林業センサス、平成12年は販売農家に係る数値である

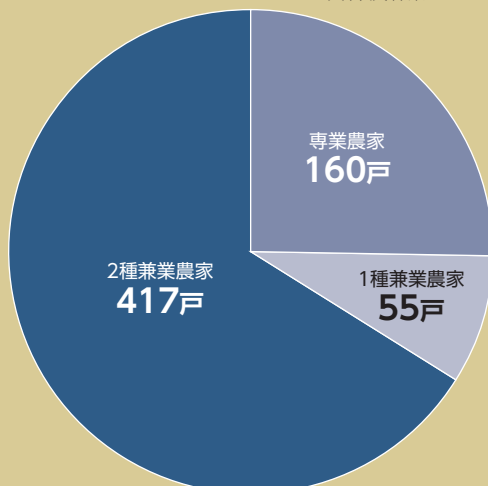


産業別就業者数・町内総生産

国勢調査における労働人口及び産業別就業者数の推移をみると、第1次・第2次産業に従事する就業者数が減少する一方で、第3次産業の就業者は増加しており、町内産業の半数以上(56.2%)が第3次産業となっています。

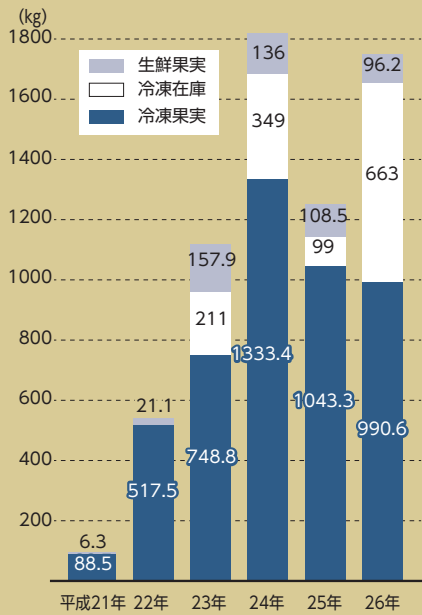
平成22年 専業・兼業農家戸数割合

資料:農林業センサス

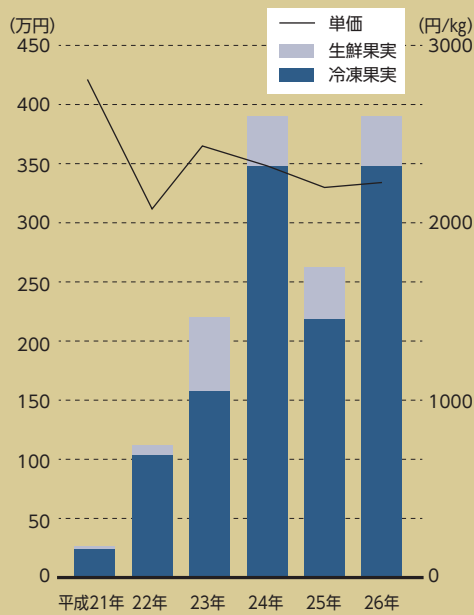


キイチゴ

生産実績(出荷総量)の推移



販売額の推移



主な農産物と所得

資料：秋田県農林水産統計年報 平成17年
(単位:千円)

作物名	農業所得
稲	1,490,000
豆 類	50,000
い も 類	10,000
野 菜 類	160,000
果 実	0
そ の 他	20,000

資料:キイチゴ研究会総会資料

地勢

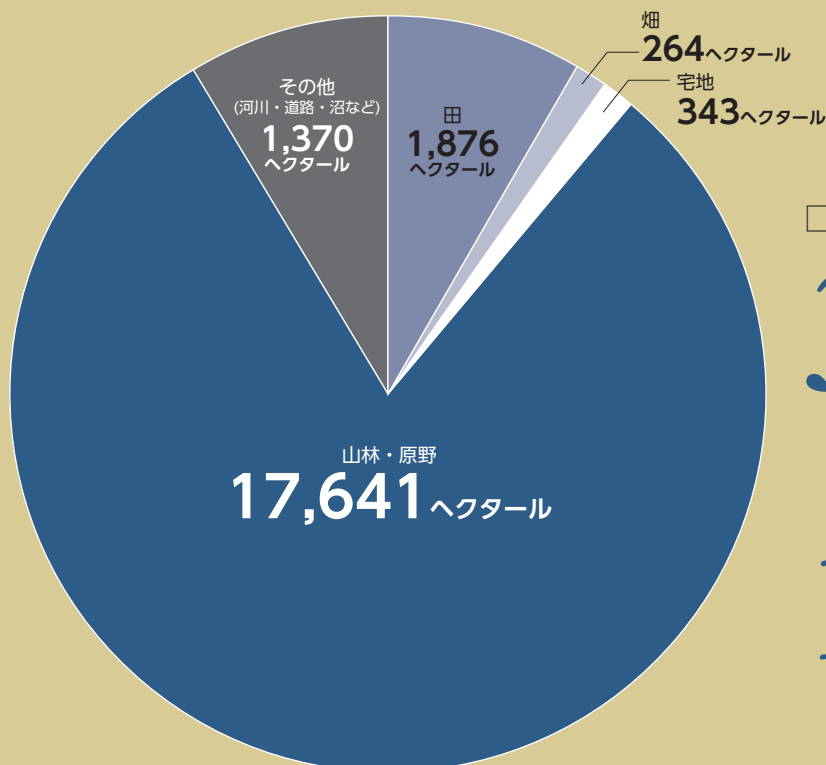
自然が豊かな町

五城目町は、秋田県の中央部、八郎湖の東部に位置するくさび形をした町です。町の中心部を流れる馬場目川の源にそびえる馬場目岳周辺は、太平山県立自然公園に指定され、清らかな溪流や勇壮な渓谷、イワナ・ヤマメの宝庫で、溪流釣りのメッカとして有名であり、特に近年では、かやぶき民家や奇岩“ネコバリ岩”などの景観が映画のロケ地に採用され、町の有する豊かな自然が評価されています。

また、流域には、2,000haもの広大な沃野が広がっており、平成2年の大嘗祭へ献上米が奉納されるなど、稲作を中心とした農林業の盛んな町です。

土地の地目別構成比

平成23年1月1日現在



森山標高

325.4メートル

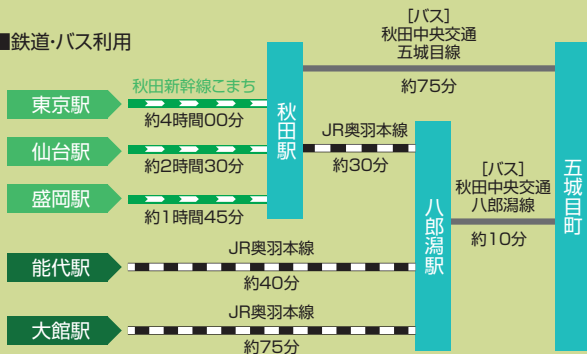
馬場目岳標高

1,037.4メートル

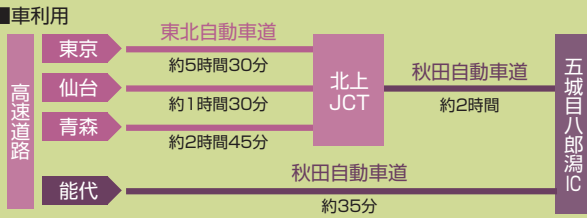
資料：町勢要覧 資料編

五城目へのアクセス ACCESS MAP

■鉄道・バス利用



■車利用



■飛行機利用



首都圏から飛行機利用で約2時間半。秋田新幹線こまち利用で約5時間。車・高速道路利用で約8時間です。

最寄りの駅は、JR八郎湯駅になります。JR八郎湯駅から五城目バスターミナルまで、秋田中央交通の路線バスで約10分となっています。

五城目町町制施行60周年記念誌 あゆみ

発行日 平成27年11月1日
発行 秋田県五城目町
〒018-1792
秋田県南秋田郡五城目町西磯ノ目一丁目1-1
TEL. 018-852-5342
FAX. 018-852-3151
町ホームページURL
<http://www.town.gojome.akita.jp/>

企画・編集 五城目町まちづくり課
印刷 秋田協同印刷株式会社

写真提供・取材・撮影協力(順不同・敬称略)

- | | | |
|--|---|--|
| 御矢師 永澤黎明 明久
布川刃物製作所
株式会社 宮盛
三温窯
福祿寿酒造 株式会社
料亭 松竹
五城館
農家レストラン 清流の森
道の駅五城目 悠紀の国 五城目
うのき食堂 | 丸井食堂
三吉食堂
大衆食堂 一力食堂
和(なごみ)料理 いとさん
近野おやき屋
草皆菓子店
伊藤菓子店
御菓子司 松月堂
八ちや菓子舗
ふるさと銘菓店 長栄堂 | 光新堂
パンの店 あったか小町
みんなの店 あさいち
生鮮村 ダイサン 五城目店
伊藤商店
赤倉山荘 悠紀の湯
湯の越の宿
小倉温泉旅館
秋田中央交通 株式会社
千代田区 |
|--|---|--|

参考文献

- 発掘 中山遺跡 弘前大学人文学部付属亀ヶ岡文化研究センター
中山遺跡と八郎湯の亀ヶ岡文化 弘前大学人文学部北日本考古学センター
五城目町朝市・五百年 小野 一二
五城目町合併40周年記念誌 飛翔21世紀へ
デジタル版 五城目町史
町勢要覧資料編



五城目町